

半年間ニ於テハ脱税ノ意思行爲共ニ繼續スルヲ以テ固ヨリ一罪ヲ組成スルニ過キサレモ次期即チ後半期ニ至レハ更ニ其期ノ税金ヲ通脱シ別ニ一罪ヲ組成スルモノナレハ前期後期共ニ繼續シテ單ニ一罪ノミヲ構成スルモノト謂フ可ラス要スルニ船車税則違犯ノ罪ハ一期間ニ在テハ繼續犯トシ二期以上ニ涉ルルハ每期別罪トシ隨テ期滿免除ノ如キモ每最終ノ日ヨリ起算ス可キモノトス右法律諮問會則第十則ニ依リ具申候也

第十六款 車税規則

○布告第廿七號 八年二月廿日
車税規則(略ス)

第十七款 牛馬賣買規則

○布告第三百二十號 五年十一月
牛馬賣買渡世ノ者免許税ノ義昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事
壬申十月 大藏省

(別紙)

牛馬賣買規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事
但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七疋以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘準之可申事
第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ケ年税金壹圓上納可致事

○但右税金前半年分ハ一月三十二日限リ後半分ハ七月卅一日限リ各管轄へ取立租税「寮」へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事

第五條 免許鑑札燒印并ニ押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密ニ賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許税十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代并ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許税五倍ノ科料可申付事

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事
但手數料トシテ一枚ニ付金二拾錢可相納事

第十八款 商標條例

○勅令第八十六號 廿一年十二月十八日
商標條例(略ス)

第十九款 商標條例施行細則

○農商務省令第十九號 廿五年十一月十八日
商標條例施行細則 (略ス)

第二十款 特許條例

○勅令第八十四號 廿一年十二月十八日
特許條例 (略ス)

第二十一款 特許條例施行細則

○農商務省令第十七號 廿五年十一月十八日
特許條例施行細則 (略ス)

第二十二款 意匠條例

○勅令第八十五號 廿一年十二月十八日
意匠條例 (略ス)

第二十三款 意匠條例施行細則

○農商務省令第十八號 廿五年十一月十八日
意匠條例施行細則 (略ス)

第二十四款 蠶種檢查規則

○農商務省令第九號 十九年八月十七日

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲メ蠶種檢查規則左ノ通相定メ原種ノ檢查ハ明治二十年検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ檢查ハ同二十一年検査期ヨリ施行ス

蠶種檢查規則

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ検査ヲ受クヘシ

第三條 検査證明ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第四條 蠶種検査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ

但シ地方ノ狀況ニ據リ巡回検査ヲ爲スモ妨ナシ

第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ

但シ検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出スヘシ

第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シテ之ヲ原種用フルモノヲ云フト

製絲用種トニ區別シテ検査所ニ差出スヘシ

第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ検査證明印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ凡テ廢棄證明印ヲ付スルモノトス

第十條 廢棄證明印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢棄スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但シ寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルハ第一條ニ據ルヘシ
第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
○農商務省令第二號 廿一年三月廿九日
明治十九年當省令蠶種検査規則中春蠶ノ製絲用種夏蠶秋蠶(及期及秋期ニ)ノ原種及製絲用種ノ検査ハ當分其施行ヲ延期ス
但シ施行ノ期ハ追テ之ヲ告示スヘシ

第二十五款 蠶絲業取締規則

○縣令甲第三十四號

廿五年五月廿四日

蠶絲業取締規則
第一條 此規則ニ於テ蠶絲業者トアルハ左ノ各項ニ該當スルモノヲ總稱ス

一 蠶ヲ養フモノ

一 蠶種及生絲ヲ製造スルモノ

一 蠶種繭、生絲及屑物ヲ賣買讓與又ハ交換スルモノ

第二條 蠶絲業者ハ一郡ヲ一區ト定メ組合ヲ設置スヘシ

蠶絲業ニ從事スルモノハ其他ノ組合ニ加入スヘシ

但シ自用ニ供スルモノハ此限ニ非ラス

第三條 組合地區ヲ聯合シ又ハ分割スルノ必要アルハ當廳ノ特許ヲ得テ之ヲ分合スルコトヲ得

第四條 組合ノ名稱ハ大分縣何郡蠶絲業組合ト稱ス可シ

但第三條ニ依リ當廳ノ特許ヲ得地區ヲ聯合シタルハ大分縣何郡蠶絲業組合ト稱シ其分割シタル場合ニ於テハ大分縣何郡何部蠶絲業組合ト稱ス可シ

第五條 蠶種ヲ製造スルニ餘付糊付等ヲ爲スヘカラス又左ニ掲クル繭ヲ以テ其原料ニ供スヘカラス

ス

一 春、夏、秋蠶又ハ赤熟、青熟等ノ類ヲ混シタル繭

一 同功繭

一 屑繭

一 病蛾ノ繭

一 他人飼養シタル繭

第六條 蠶種ニハ原紙ノ表面ニ其種類(春、夏、秋蠶)名稱(赤熟、青熟、小石丸ノ類)裏面ニ製造者ノ住所氏名ヲ明記スベシ

但シ框製種ノ原種ニハ種類名稱及製造者ノ住所氏名ヲ其裏面ニ明記スヘシ

第七條 繭及生絲ニ不正ノ重量ヲ付シ若クハ二緒以上ヲ合セ揚返シタルモノハ賣買讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 蠶種製造用ノ繭ハ其地組合ノ検査ヲ受ケ合格ノモノニ限ルヘシ

第九條 蠶種ハ其地組合検査済ノ證アルニアラサレハ賣買、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

第十條 生絲一括以上ノモノハ其地組合検査ノ證アルニアラサレハ賣買、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

但シ一括未滿ノモノニシテ製造者ノ住所氏名ヲ明記シタル帶紙ヲ以テ結束シタルモノハ此限ニ非ラス

第十一條 繭生絲荷造ノ上他管下ニ販賣スルモノハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ氏名ヲ記入シタル標章ヲ付スヘシ

但シ商標ヲ付スルハ本條ノ限ニ非ラス

第十二條 各組合ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ之ヲ定ムヘシ

第一項

- 一 種繭及蠶種検査方法
- 一 蠶種製造方法
- 一 生絲検査方法
- 一 桑病豫防法及蠶兒ノ養法
- 一 繭ノ殺蛹及貯藏方法
- 一 繭ハ春夏秋ノ種類又ハ殺蛹法ノ異ナルモノヲ混淆賣買セサルコト
- 一 工女ノ使傭規程ヲ定メ製絲家相互間業務ニ支障ナカラシムルコト
- 一 製絲ハ綫取アル揚篋ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ニスルコト
- 一 生絲ノ結束及紹ノ量目ヲ一樣ニスルコト

第二項

- 一 組合ノ區域
 - 一 組合議員及役員選舉方法
 - 一 小區委員ノ選舉方法及權限
 - 一 組合入退者取扱方法
 - 一 違約者處分ノ方法
 - 一 組合議員會議ニ關スル規程
 - 一 經費賦課、徵收、支出ノ方法
- 前二項ノ外地區ノ情況ニ依リ必要ナル事項
- 第十三條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ
- 一 取締所ノ位置
 - 一 縣下各組合ノ氣脈ヲ聯通スル方法
 - 一 内外蠶絲業ノ實況ヲ調査シ及之ヲ報告スルノ方法

- 四 取締所會議々員及事務員選舉ノ方法
 - 五 取締所會議ニ關スル規程
 - 六 經費賦課、徵收、支出ノ方法
- 右ノ外取締所會議ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第十四條 組合ハ組合地區便宜ノ地ニ事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フ可シ
- 第十五條 縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ設ケ各組合ヲ統督ス可シ
- 第十六條 各組合員ハ必ス其組合ノ證票ヲ携帯スベシ
- 但シ加入者ノ住所氏名ハ其都度取締所ニ届出スベシ
- 第十七條 各組合ハ議員ヲ選定シ會議ニ於テ規約ヲ規定シ取締所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クベシ
- 但シ規約認可濟ノ上ハ其旨ヲ以テ規約ノ謄本一通ヲ所轄郡役所ニ差出スベシ
- 第十八條 取締所ノ會議ハ各組合長及各組合選出ノ議員ヲ以テ組織シ規約ヲ議定シテ當廳ノ認可ヲ受クベシ
- 第十九條 各組合ハ組合内ニ小區ヲ設ケ每區ニ委員ヲ置キ區内ノ事務ヲ辦理セシム可シ
- 第二十條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守スベシ
- 第二十一條 各組合事務所ニハ組合長及幹事以下役員若干名ヲ置キ組合ノ事務及規約ヲ以テ定メタル一切ノ事務ヲ取扱フベシ
- 第二十二條 組合長及幹事ハ其組合ノ會議ニ於テ公選シ選任及改選ノ都度取締所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 組合長ハ常ニ組合内ノ業務上ニ注意シ事業ノ隆昌ヲ計ル可シ
- 第二十四條 取締所ニハ頭取理事以下役員若干名ヲ置キ取締所ノ事務及規約ヲ以テ定メタル一切ノ事務ヲ取扱フ可シ
- 第二十五條 頭取ハ常ニ内外蠶絲業上ノ實況ニ注意シ各組合ノ業務ヲ總理スベシ

第二十六條 他管下ノ者ト雖モ當管下ニ於テ蠶絲業ニ從事スルトキハ其地組合規約ノ取締法ヲ遵守スベシ

第二十七條 組合員ハ其組合及取締所ノ費用ヲ負擔セサルヲ得ス

第二十八條 本則第二條ノ第二項第五條第七條第九條第十條第十一條第二十條第二十六條第二十七條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第二十六款 青苧業花苧業取締規則

○縣令甲第三十五號 廿六年八月十一日
青苧業花苧業組合取締規則左ノ通相定ム

但明治十七年(十二月)甲第五十九號青苧取締規則ハ本則組合成立ノ日ヨリ廢止ス

青苧業花苧業組合取締規則

第一條 本則ニ於テ青苧業ト稱スルハ青苧製造業、青苧商業ヲ云ヒ花苧業ト稱スルハ花苧製造業

第二條 青苧業花苧業ヲ營ム者ハ組合ヲ設クヘシ

但狀況ニヨリ青苧花苧ノ二部ニ分割スルコトヲ得

第三條 青苧業花苧業ヲ營ム者ハ必ス組合ニ加入スヘシ

第四條 組合ハ縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ組合ノ事務ヲ整理スヘシ

第五條 組合ハ評議員ノ決議ヲ以テ左ノ各項ニ準シ規約ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更スルトキモ亦同シ

一 組合ノ名稱

二 組合ノ區域及取締所、検査所等ノ位置

三 組合ノ目的及方法(製造、染色、販賣ノ改良及取締、製
品検査、技術傳習、業務調査報告等)

四 役員ノ選舉方法及其權限

五 會議ニ關スル規程

六 費用ノ賦課及徵收支出方法

七 違約處分ノ方法

八 加入及退去ニ關スル規程

右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第六條 組合ハ營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスヘシ

第七條 組合ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 組合ハ其規約ヲ以テ價格賃金及賣買手数料ヲ一定シ又ハ取引先ヲ制限スルコトヲ得ス

第九條 組合ハ評議員若干名ヲ公選スヘシ

但左ニ掲クルモノハ被選舉人タルヲ得ス

一 青苧業ヲ營ミ二ヶ年花苧業ヲ營ミ一ヶ年ヲ經サル者

但創業ノ地ハ此限ニアラス

二 丁年未滿ノ者

三 瘋癲白痴ノ者

四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及破産宣告又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ

五 商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ヲ以テ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免三ヶ年ヲ經過セサル者

六 公權剝奪若クハ公權停止中ノ者

七 本則ニ背キ又ハ組合ノ違約處分ヲ受ケ一ヶ年ヲ經過セサル者

第十條 組合ハ頭取以下ノ役員ヲ設ケ頭取ノ任免ハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
 但當廳ニ於テ頭取ヲ不適任ト認ムルトキハ之レカ改選ヲ命スルコトアルヘシ
 第十一條 頭取其他重役ノ撰擧ハ評議員ノ公選ヲ以テスヘシ
 第十二條 組合員ハ取締所ノ検査ヲ受クルニアラサレハ青筵又ハ花筵ヲ輸出スルコトヲ得ス
 第十三條 組合ノ經費ハ組合員之ヲ負擔スヘシ
 第十四條 經費豫算及賦課徴收法ハ毎年評議員會ノ議決ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
 第十五條 經費ノ決算ハ毎年組合員ニ報告シ當廳ニ届出ツヘシ
 第十六條 組合ハ青筵又ハ花筵ノ輸出版賣高及商況、輸出増減及其原因ヲ調査シ每六ヶ月又ニ當
 事業年度ノ成績及青筵又ハ花筵ノ産出高ヲ調査シ毎年當廳ニ届出ツヘシ
 第十七條 組合ハ評議員及青筵花筵輸出者ノ住所氏名ヲ取調當廳ニ届出ツヘシ
 第十八條 評議員會ノ開閉期日ハ豫メ當廳ニ届出ツヘシ
 第十九條 當廳ハ官吏ヲ派出シ組合業務ノ實況ヲ監査シ諸帳簿ヲ點檢セシムルコトアルヘシ
 第二十條 組合ノ行爲又ハ決議ニシテ法律規則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ恐れアリト認メタル
 トキハ之ヲ取消又ハ中止セシムルコトアルヘシ
 第二十一條 他管下ノ者當縣管内ニ於テ青筵業又ハ花筵業ヲ營ムトキハ總テ本則ヲ遵守スヘシ
 第二十二條 本則第三條第十二條第二十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科
 料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
 第二十三條 本則ハ明治二十六年九月一日ヨリ施行ス
 ○縣令甲第三十六號 廿六年八月十一日
 青筵業花筵業組合取締規則施行順序左ノ通相定ム
 青筵業花筵業組合取締規則施行順序
 第一條 本則第一條ニ掲クル營業者ハ左ノ區別ニ依リ青筵業花筵業各十七名ノ組合創立員ヲ同業

者中ヨリ投票ヲ以テ明治廿六年九月十日迄ニ選舉スヘシ
 青筵業ニ屬スル分
 東國東郡 五名 速見郡
 大分郡 三名 北海部郡
 大野郡 一名 南海部郡
 直入郡 一名 玖珠郡
 下毛郡 一名 日田郡
 字佐郡 一名 西國東郡
 花筵業ニ屬スル分
 東國東郡 七名 速見郡
 大分郡 三名 西國東郡

第二條 組合創立員ノ住所氏名年齢及營業種別ハ明治廿六年九月十五日迄ニ選舉者二名以上連署
 之ヲ當廳ニ届出ツヘシ
 第三條 青筵業花筵業組合創立員ハ協議ノ上明治廿六年九月二十五日迄ニ各同一ノ場所ニ組合創
 立事務所ヲ開設シ其地名番戸ヲ當廳ニ届出ツヘシ
 第四條 組合創立員ハ本則第五條ニ遵ヒ組合規約ヲ作り明治廿六年十月十日迄ニ認可願ヲ當廳ニ
 差出スヘシ
 第五條 組合創立員組合規約ノ認可ヲ得タルトキハ之ヲ同業者ニ廣告スヘシ
 第六條 組合創立員ハ互選ヲ以テ若干ノ選舉係ヲ設ケ明治二十六年十一月五日迄ニ組合評議員並
 役員選舉ノ事務ヲ整理スヘシ
 第七條 組合創立員ハ頭取以下重役就任ノ上創立事務ヲ引續キ其任ヲ了ルモノトス
 第八條 組合創立入費ハ組合成立ノ後組合經費ヨリ支辨スヘシ

(八九三)

第九條 本則第九條第一項但書ノ創業地ヲ指定スルハ組合規約ヲ以テスヘシ
第十條 明治十七年甲第五十九號青筵取締會所規約ニ依リ認可シタル豐州青筵取締會所規約ニシテ本
則ニ抵觸セサルモノハ更ニ當廳ノ認可ヲ經テ之ヲ存續スルコトヲ得

○第二十七款 賣藥印稅規則

○布告第五十一號 十五年十月廿七日
賣藥印紙規則(零ス)

第七編 海港

第一章 稅關及特別輸出

第一款 稅關法

○法律第八十號 廿三年九月六日
稅關法(零ス)

第二款 稅關規則

○勅令第二百三號 廿三年九月六日
稅關規則(零ス)

第三款 稅關管轄區域

○勅令第二百四號 廿三年九月六日
稅關管轄區域左ノ通之ヲ定ム

橫濱稅關管轄區域

陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏 相模 伊豆 駿河 遠江

十一箇國及小笠原島ノ沿岸

大阪稅關管轄區域

參河 尾張 伊勢 志摩 紀伊 和泉 攝津 西成郡
以東

七箇國ノ沿岸

神戶稅關管轄區域

攝津 川邊郡
以西 播磨 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 石見 出雲

伯耆 因幡 但馬 丹後 隱岐 伊豫 土佐 阿波 讚岐 淡路

二十箇國ノ沿岸

長崎稅關管轄區域

肥前 肥後 筑前 筑後 豐前 豐後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

十二箇國ノ沿岸

新潟稅關管轄區域

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 羽前 羽後 佐渡

九箇國ノ沿岸

函館稅關管轄區域

陸奥 陸中 渡島 後志 石狩 天鹽 北見 根室 千島 釧路 十勝 日高 膽振

十三箇國ノ沿岸

第四款 沿海開港外警察署分署ヨリ所管稅關ニ通報スヘキ場合

○大藏省訓令第二百二十八號

廿三年九月十二日

(九九三)

今般勅令第二百四號ヲ以テ稅關管轄區域制定相成候ニ付テハ右勅令施行ノ日ヨリ沿海開港外ニ於テ左ノ場合アルキハ速カニ其地警察署若クハ警察分署ヨリ所管稅關ニ通報セシムヘシ

- 一 稅關法第三條ノ違犯者アリタルキ
- 一 法律命令ニ背キ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲ス者アリタルキ
- 一 外國通航船避難ノ爲メ入港シタルキ
- 一 外國船入港シタルキ
- 但シ特ニ免許ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 一 外國通航船又ハ外國船難破シタルキ

第五款 特別輸出港規則

○法律第二十號 廿二年七月三十日

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特別輸出港規則

- 第一條 帝國臣民米麥麥粉石炭硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス
 - 一 伊勢國四日市
 - 一 筑前國博多
 - 一 肥前國口ノ津
 - 一 肥後國三角
 - 一 後志國小樽
 - 一 長門國下ノ關
 - 一 豐前國門司
 - 一 肥前國唐津
 - 一 越中國伏木
 - 一 釧路國釧路
- 第二條 前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントスルキハ大藏大臣ヘ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ
- 第三條 特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニ依ル

ヘシ

第四條 第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲ爲スコトヲ得ス犯ス者ハ五百圓

以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニ在リテハ尙ホ第二條ノ免許ヲ取上クヘシ

第五條 本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルキハ六箇月前ニ公布スヘシ

第六條 本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六款 特別輸出港規則施行細則

○大藏省令第十三號

廿七年六月十四日

細則(略ス)

第二章 船舶及船燈諸標

第一款 海上衝突豫防法

○法律第五號 廿五年六月廿二日

海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於テ船舶ニ適用スル
 本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用井サルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用
 ウルト用井サルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ
 本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
 本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ
 船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天候ノ如何ニ關セズ日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ船燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ

隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後橋ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ(三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ヲ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用井中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ船燈ノミヲ掲クヘ

シ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船及櫓槳若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 櫓槳若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈

籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ櫓頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船船ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ櫓頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

第九條 凡ソ漁船其ノ業ニ從事スルトキハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但シ航行中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

一 刺網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二箇ノ白燈ヲ龍骨線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此ノ燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 線網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲スヘシ此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其ノヨリ正横後ノ二點マテハ右舷ハ綠色、左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ホシ又増掲ノ白燈ハ常ニ

乙

不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキモノタルヲ要ス
總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキ白燈一箇ヲ掲ク
ル外尙少クモ三十秒時間發火スヘキ紅光焰管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我
船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ發スヘシ
本項乙ニ記載スル諸船ハ地中海ニアリテハ紅光焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ用ウルヲ得
本項甲乙ニ記載スル諸船ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス
總積量七噸未滿ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル白燈ヲ掲クルヲ要セス然レト
モ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色亮明ノ光ヲ發スル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我
船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定
メテ其ノ燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示シ且本條第二項乙ニ規定シタル紅光焰管ヲ發シ或ハ
其ノ焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

丙

三 繩釣漁業ニ従事スル船碇泊若ハ停留セサルトキハ刺網ヲ用井タル漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘ
シ

四

漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發スルヲ得但シ線網其ノ他
桁網ノ類ヲ以テ漁業ニ従事スル船ノ閃火ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レトモ漁具ヲ船尾ニ
繫キタル場合ニ於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五

漁船碇泊スルトキハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ表示スヘシ
漁船其ノ漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏着シタル爲其ノ所ニ停留スルトキハ碇泊船ト同一ノ
燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信號ヲ爲スヘシ

六

霧中降雪其ノ他暴雨中刺網、線網、桁網ノ類其ノ他繩釣ノ業ニ従事スル漁船ニシテ總積量二
十噸以上ナルトキハ汽笛ナレハ汽笛又ハ汽角、帆船ナレハ霧中號角ヲ用井一分ヨリ多カラ
サル時間毎ニ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

七

八 刺網、線網又ハ繩釣漁業ニ従事スル帆船運航中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃又ハ其
ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄ル他船ニ其ノ漁船ナルコトヲ表示スヘシ
本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十條

他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ
本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置シテ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ
見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ銀盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨ
リ左右ハ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條

長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサ
ル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ
見得ヘキモノタルヲ要ス

第十二條

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ
前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈
一箇ヲ掲クヘシ

第十三條

本條船舶ノ長サハ本船ヲ籍證書面ノ長サニ依ルヘシ
船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乗揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇
ヲ掲クヘシ

第十四條

各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火
ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得
本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信
號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府
ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ
汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右航開ナレハ一聲ヲ發シ左航開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ホス虞アル場所ニ碇泊シタルトキハ汽船ナレハ汽笛若ハ汽角ヲ用井二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラ

スヘシ又帆船ナレハ霧中號角ヲ用井一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ二聲ヲ發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

六 他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ

引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ其ノ三聲ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

八 海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ三長聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

九 船舶航行中運轉自由ヲ得シテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ワサルトキニ際シ近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ四短聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サ、ルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

漁船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他

船ノ航路ヲ避クヘシ

四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鉞路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鉞路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ櫓ト他船ノ櫓ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鉞路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鉞路及速力ヲ保ツヘシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラヌ他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船ハシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條 航行中ノ帆船ハ綱或ハ繩ヲ用井テ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖狼ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若シ危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄り鉞路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鉞路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船鉞路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船鉞路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

懈怠ノ責

(二一四)

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ意リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ意リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス
 - 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス
 - 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲ケル遠隔信號ヲ表示ス
 - 四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク
 - 五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス
- 夜間信號
- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス
 - 二 船上ノ發焰(ターナル桶、油桶等)ヲ燃焼スルノ類
 - 三 空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク
 - 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第二款 海上衝突豫防法漁業具說明

○遞信省告示第八十五號 廿五年八月十八日

明治二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法第九條ニ掲載スル刺網、繰網及繩釣漁業トハ左ニ記載スルモノヲ謂フ

刺網トハ鯧刺網、鮪流網、鯉流網其他流シテ用ウル刺網
繰網トハ打セ網、帆曳網其他漁船ノ進行ニ從ヒ海底ヲ曳ク繰網
繩釣漁業トハ曳繩又ハ延繩ヲ使用スル漁業但シ延繩ハ延入レ若クハ繰上クルトキニ限ル

第三款 船燈信號器製造販賣規則

○遞信省令第十九號 十九年七月二十三日

船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ム
但明治十四年八月農商務省甲第四號布達ハ廢止ス

船燈信號器製造販賣規則

- 第一條 船燈(燈籠)發火信號器(星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號器)ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ攜帶シテ遞信省ノ試験ヲ受クヘシ但試験入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム
- 第三條 遞信省ハ船燈發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

(三一四)

- 第四條 免許製造ノ船燈發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ
- 第五條 免許製造ノ船燈發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス
- 第六條 船燈發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニ廣告シ且其製造所販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ
- 第七條 免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ
- 第八條 船燈發火信號器製造人ノ員數ハ逕信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應ジ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ
- 第九條 逕信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ
- 第十條 不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十一條 第一條ニ違背シ船燈若クハ發火信號器ヲ製造シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 不合格ノ船燈發火信號器ヲ製造又ハ販賣スルモノアルハ逕信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スル事アルヘシ
- 第十三條 第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四款 船燈信號器監査手續

○逕信省訓令第一號 廿年二月一日 廳沿海府縣並滋賀縣(沖繩縣ヲ除ク)
 明治十八年四月農商務省第十一號達船燈監査手續概目ヲ廢止シ船燈信號器監査手續左ノ通定ム

船燈信號器監査手續

- 第一條 船燈信號ノ監査ハ所轄廳ノ官吏ヲシテ船燈發火信號器製造所販賣所及繫泊ノ船舶ニ就テ施行セシムヘシ但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小船ハ此限ニアラス
- 第二條 監査官吏ハ船燈信號器製造販賣規則第九條ニ從ヒ製器ノ適否ヲ監査シ合格ノ船燈ニハ其廳名アル檢印檣燈ハ側面ヲ 舷燈ハ前面ヲ銘シ不合格ノ船燈發火信號器ハ該規則第十條第十一條ニ據リ處分スヘシ
- 第三條 繫泊ノ船舶ハ船籍ノ自他ニ拘ハラズ定時四月十日又ハ臨時之ヲ監査シ甲號書式ニ從ヒ監査證書ヲ下付スヘシ
- 第四條 無檢印ノ船燈ヲ所持スルモノハ其購入ノ年月監査手續施行以後ニ係ルトキハ之ヲ製造及販賣セシモノ、住所氏名ヲ取糺シ逕信省ニ報告スヘシ
- 第五條 製造人ノ確證ナキ發火信號器ヲ所持スルモノアルトキハ製器ノ適否ニ拘ハラズ其確證アルモノト更換セシムヘシ
- 第六條 號角號鐘ノ尺度ハ本年當省告示第八號ニ據リ其音響ノ充分ニ達スルモノヲ要スヘシ
- 第七條 監査證書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ル迄ハ各地方ヲ通シ該證書欄内ニ其都度監査官吏加書押印シ參照ノ便ニ供スヘシ
- 第八條 毎回監査ヲ了リタル上ハ乙丙號書式ノ監査表ヲ製シ一箇年兩度六月十二月ニ取纏メ逕信省ニ報告スヘシ
- 第九條 製造人販賣人ノ住所氏名ハ廳府縣ヨリ官報ニ掲載スヘシ但人員増減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ
- 第十條 船燈信號器犯則ノ處分ニ係ルモノハ其實事ヲ詳記シテ逕信省ニ届出ヘシ
- 第十一條 監査官吏ハ船長若クハ重立タル海員ニ向テ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉

- 第十四項 機關ノ種類及ヒ數
- 第十五項 汽罐ノ種類及ヒ數
- 第十六項 推進器ノ種類
- 第十七項 公稱馬力
- 第五條 新造若クハ改造シタル船舶又ハ外國人ヨリ取得シタル船舶ノ假證書ハ前條第一項ヲ除キ船舶ノ種類ニ從ヒ其他ノ諸件ヲ記スヘシ
- 第六條 同一ノ船舶ニシテ再度以上假證書ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖モ其効力ハ初度ノ證書ニ記載シタル年月日ヨリ起算シ商法第八百三十條第二項ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第七條 船舶證書ノ交付ヲ願出ツルトキハ手数料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ
- 第八條 船舶證書ハ常ニ船内ニ保持シテ船長之ヲ監守シ稅關官吏、司檢官、警察官、領事其他正當職權アル者ニ於テ檢閱ヲ要スルトキハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ
- 第九條 船舶證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ改記スヘシ
- 第二項 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及ヒ船籍港名ヲ方三寸五分以上ノ國字並羅馬字ヲ以テ記スヘシ
- 第二項 中央ノ船梁ニ船舶證書ノ番號及ヒ登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番號噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ
- 第三項 船首材及ヒ船尾材ノ外部兩側面ヘ水脚ヲ示ス爲メ一尺毎ニ方五寸ノ羅馬又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ
- 第十條 船舶證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名、船梁ニ船舶證書ノ番號及ヒ石數ヲ記スヘシ
- 第十一條 船舶所有者船籍港ニ居住セザルトキハ本船ニ關スル事務ヲ代辨セシムル爲メ其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ届出ツヘシ
- 第十二條 船舶ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船籍面ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ノ書換

- 第十三條 船舶港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ
- 第十四條 船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其旨ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ申出且船籍證書ヲ返納スヘシ
- 第十五條 船舶ノ破壊、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若クハ日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ本船ノ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ返納スヘシ
- 第十六條 本條例第八條乃至第十五條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 明治十二年五月第十九號布告ニ依リ付與セシ西洋形船登簿船免狀ハ此規則施行ノ日ヨリ船籍證書ト見做シ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス
- 第十八條 明治三年正月布告商船規則同十二年二月第五號布告同年五月第十九號布告同十四年二月第十二號布告其他從前ノ成規中此規則ニ抵觸スルモノハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第十九號 此規則ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第七款 船籍規則施行細則

○遞信省令第二十號 廿三年十一月八日

- 船籍規則施行細則左ノ通り相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス
- 船籍規則施行細則
- 第一條 船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シタル者ハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ作リ本船々籍港所轄ノ市町村役場又ハ浦役場ヲ經テ本船ノ測度ヲ地方官廳ニ願出テ且同時ニ該役場ヘ船籍ノ編入ヲ請ヘシ

第二條 市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ前條ノ件名書ヲ調査シ五十石未満ノ日本形船ハ其事項ヲ直チニ役場ノ船籍臺帳ニ登録シ其他ノ船舶ハ件名書ヲ地方官廳ニ送達シ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第三號若クハ第四號書式ノ測度表ニ依リ其積量ヲ算出シ第五號若クハ第六號書式ノ測度證書ヲ作り件名書ヲ照査シ前條ノ市町村役場又ハ浦役場ヘ送付スヘシ

測度證書及ヒ件名書ヲ受領シタル市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ測度證書及ヒ件名書ニ依リ其事項ヲ船籍臺帳ニ登録スヘシ

第四條 前條ノ船舶ニシテ船籍證書ヲ受有スヘキモノナルトキハ更ニ市町村長又ハ浦役人ノ與書ヲ受タル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ船籍證書ノ交付ヲ遞信省ニ願出ヘシ但左記ノ船舶ハ船籍證書ヲ受有スルノ限ニアラス

一 國内水上ヲ運航スル船舶

一端舟其他櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓ヲ以テ運轉スル舟

第五條 地方官廳ニ於テハ前條ノ願書及ヒ件名書ニ測度表ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ進達スヘシ

第六條 遞信省ニ於テハ件名書及ヒ測度表ヲ調査シ其船舶ノ種類ニ從ヒ第七號第八號若クハ第九號書式ノ船籍證書ヲ作り之ヲ地方官廳ニ送付シ地方官廳ハ市町村長又ハ浦役人ヲシテ之ヲ船主ニ交付ヒシムヘシ但第十一條ニ係ル船舶ニ交付スヘキ船籍證書ハ遞信省ヨリ直ニ領事館ニ送付シ其旨ヲ船籍地方官廳ニ通知スヘシ

第七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ニ本船ノ測度ヲ請ヒ且假證書ノ交付ヲ願出ヘシ但本船々籍港ニ到著シタルトキハ速ニ第一條及ヒ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 前條ノ願書ヲ受領シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ由リ其積量ヲ算出シ直ニ第十號第十一號若クハ第十二號書式ノ假證書ヲ作り之ヲ願人ニ交付シ且同時ニ其證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ本船々籍港地方官廳ニ送付スヘシ

第九條 假證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ送付ヲ受ケタル地方官廳ニ於テハ本船々籍港ニ到著ノ上其測度ヲ願出タルトキ送付ノ測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ更ニ測度ヲ要セス直チニ測度證書ヲ作り件名書ト共ニ市町村役場又ハ浦役場ニ送付スヘシ

第十條 內國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ若クハ船籍ヲ移轉シタルトキハ測度ヲ除クノ外第一條ノ手續ニ依リ其入籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ市町村長又ハ浦役人ノ與印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シ其證書ノ交付ヲ請ヒ且書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ

第十一條 外國ニ於テ船舶ヲ製造シ又ハ他人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ單ニ外國地方ヲ航海シ本國ニ廻船セサル者ハ其事由ヲ具シタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ領事館ニ測度ヲ願出テ同館ヨリ交付ノ測度證書ヲ本船々籍港ニ送付シ第一條ニ依リ其入籍ヲ請フヘシ但船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ本證書到達迄ノ間領事館ヨリ假證書ヲ願受ルヲ得ヘシ

領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ依リ其積量ヲ算出シ測度證書ヲ願人ニ交付シ且同時ニ本船件名書測度表ヲ其船籍地方官廳ニ送付スヘシ但假證書ヲ願出タルトキハ第八條ノ手續ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第十二條 船籍港外ニ於テ船籍證書ヲ受有シタル船舶ノ所有權ヲ取得シタルトキハ測度ヲ除クノ外第七條ノ手續ニ依ルヘシ

第十三條 船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ市町村役場又ハ浦役場ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ市町村長又ハ浦役人ノ與印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第

二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ其證書ノ書換ヲ遞信省ヘ願出舊證書ヲ返納スヘシ
但積量ノ變更ニ係ルトキハ更ニ測度ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ
第十四條 船籍證書又ハ假證書ヲ喪失若クハ毀損シタルトキ船籍港ニ於テハ其事由ヲ具シタル願
書ニ市町村長又ハ浦役人ノ與印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ其船籍證書ノ再渡若クハ書換ヲ遞信
省ヘ願出ヘシ

船籍港外ニ於テハ其事由ヲ具シ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ直チニ本船所在地ノ地
方官廳又ハ領事館ヘ假證書ノ交付ヲ願出ヘシ

第十五條 前條ニ依リ假證書ヲ交付シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ其事由ヲ詳記シ件名書及
證書ノ謄本ヲ添ヘ速ニ本船ガ籍港ノ地方官廳ヘ通報スヘシ

第十六條 船籍規則第十五條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ浦役場ニ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有
シタル者ハ地方官廳ヲ經由シ之ヲ遞信省ヘ返納スヘシ但假證書ナルトキハ其發出ノ官廳ヘ返付
スヘシ

第十七條 船籍證書又ハ假證書ノ交付ヲ願出ル者ハ初渡、再渡、書換ヲ問ハス出願ノ際船籍規則第
七條ニ掲タル手数料ヲ上納スヘシ

附 則

第十八條 明治十二年五月二十一日内務省丙第二十五號達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 現在ノ船舶ハ此細則施行ノ爲メ更ニ積量ノ測度ヲ要セス從來ノ噸數石數ニ依ル
(以下書式ハ之ヲ畧ス)

第八款 船籍規則施行規限

○勅令第百十七號 廿五年十二月廿日

明治二十三年十月勅令第二百十九號船籍規則ハ商法中本則ニ關聯スル條項ノ施行延期中之ヲ實施

セス

○遞信省令第十七號 二十五年十二月二十三日

明治二十三年十一月當省令第二十號船籍規則施行細則ハ船籍規則實施ノ期日迄之ヲ實施スヘシ

第九款 西洋形船舶検査規則

○布告第三十號(農商務) 十七年十二月廿二日

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

西洋形船舶検査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風
帆船ハ此限ニアラス

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 検査所々在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ヘシ

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ船々籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘ
シ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シ
タル検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
- 一 船名
- 一 船主氏名
- 一 一定繫場名
- 一 登簿噸數
- 一 汽船ハ左ノ事項ヲ加フ
- 一 一端船其他必要ノ所屬品
- 一 公稱馬力
- 一 航行シ得ヘキ場所ノ定限
- 一 證書有効期限
- 一 汽船ハ左ノ事項ヲ加フ
- 一 公稱馬力

- 一 汽機ノ種類
- 一 汽罐ノ種類
- 一 最大汽壓
- 一 旅客定員
- 第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ム
- 第九條 検査證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス
- 第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ
- 第十一條 検査證書ヲ亡失若ハ毀損シタルキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ
- 第十二條 船名船主及ヒ定警場ヲ變更シタルキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ
- 第十三條 船體若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ
- 第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サヘルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ
- 第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス
- 第二十條 第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス
- 第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

第十款 西洋形船舶免狀船内ニ保存方

○遞信省訓令第四號 廿二年十月三十一日

西洋形船々免狀ハ明治十二年第十九號布告ヨリ航海公證ヲ廢シ授與スルモノ故外國航ノ船舶ハ勿論内國航通ノモノト雖モ各船其船内ニ保存スヘキモノナルニ往々船主ノ許ニ留置船内ニ所持セザルモノ有之不都合ニ付自今右等ノ所爲無之機管下西洋形船持主ヘ懇篤説諭スヘシ

第十一款 西洋形船水先免許規則

○布告第三十七號 十一年十二月九日

明治九年十二月二十五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事 (別冊)

西洋形船水先免狀規則

- 第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ
- 第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ
- 第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ
- 第一 東京灣
- 即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以

テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ西界トス

第四條 各海港即水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免許ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ル爲メノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標標標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ滿足セシムルコトヲ要スヘシ

第七條 受験人試驗ヲ受ケテ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手數料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試驗ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フル人數ノ限り及ヒ試驗ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試驗出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分滿足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之ヲ試驗ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスルハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスルハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導專用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ

其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同
様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル区域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等
ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ 第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニ
テ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ 第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込ア
ル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ懸揚
スヘシ但水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ 第四 水先船其營業場ニ
於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用ル燈火ヲ掲ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白
燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ
水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ
(十三年第卅九號布告ヲ以テ本項改正)
(十三年第三十九號布告ヲ以テ本

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗英國旗又ハ國旗ヲ掲揚スル事 第二 萬國普通ノ水先信號P
Tノ符字ヲ掲示スルコト
夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ
第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スルコト 第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白
燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スルコト
第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又
ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ農商 二於テ其執
業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ農商務省ニ
於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ
或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員
ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ
(水先料一覽表略之)

第十二款 西洋形海員雇入雇止規則

○布告第九號 十二年二月十九日

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條 西洋形船(蒸汽船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ
總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ
第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ遞信省ヨリ發スル海員備入證書用紙ヲ以テ其定約
書ヲ作り備者被備者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ但定約書ハ正副貳通ヲ作り其本書ハ
本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ
第三條 内海回漕船ニ於テハ備入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ
約スルヲ得ヘシ
第四條 備止ノ時備者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ遞信省ヨリ發スル海員備止證書用紙ヲ以テ備
止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被備者ニ付與スヘシ
備入又ハ備止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ検査ニ供シ且其検査證書ヲ申受クヘシ
備入又ハ備止ノ公認ヲ受クルモノハ手数料トシテ被備者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ備者被
備者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ

備入約定書及ヒ備止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ二名以上ノ保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ

第五條 備止ハ備入地ニ限り行フヘシ故ニ備入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ備入地ニ歸着スル迄ハ備入期限内ト見做スヲ得ヘシ但備着被備者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ備入地外ト備入期限内トニ拘ハラヌ備着ヨリ備止ヲナスコトヲ得ヘシ

一 疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者 一本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時 但以上二項ノ場合ニ於テハ備着ノ費用ヲ以テ備入地ヘ歸還セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者 一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ備入地外ト備期限内トニ拘ハラヌ被備者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時 一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時但シ右ノ場合ニ於テハ備入地ヘ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ備入若クハ備止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ遞信省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ備止證書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クベシ但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保子置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前備止トナリシ者ヲ除クノ外被備者ハ必ス最後ノ備止證書ヲ所持スヘシ又備着ハ最後ノ備止證書ヲ所持セサル者ヲ備入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ備主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上グルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(備入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ

其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償シムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十三款 西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

○布告第七十五號(農商務卿連署) 四年十二月廿八日

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年^六第八十二號同年^六第九十四號同年^{十二}第五百五十三號同年^{十二}第五百五十七號十三年^{十二}第五十八號十四年^二第十三號同年^三第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

ハ西洋形船々長運轉手機關手免狀規則 此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス 此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及薩俄噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條 船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スベシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五分ヲ各々試驗規則ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條 試驗ノ規程ハ第一號布達ニ據ルヘシ

(八三四)

ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各貳圓以上貳百五十拾圓以下ノ罪金ヲ科スヘシ

第十條 農商務卿ハ船長運轉手機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一亂醉粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者 第二失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痍ヲ被ラシメシ者 第三輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルハ遞信大臣其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ遞信大臣其免狀ヲ取揚クヘシ

若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五十拾圓以下ノ罪金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト共ニ發スルトキハ罪金ヲ并セ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ遞信大臣ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十四款 西洋形日本船各開港場出入規則

○布告第六十三號 八年十一月八日
西洋形日本船各開港場出入規則(略ス)

第十五款 西洋形船舶檢查細則

○遞信省令第十八條 二十六年十月二十一日

明治十九年^四當省令第四號西洋形船舶檢查細則左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

第十六款 西洋形船舶檢查手續

○遞信省訓令第七號 二十六年十二月二十八日
西洋形船舶檢查手續(略ス)

第十七款 汽船問屋營業取締規則取扱手續

○保第五八六號 廿四年六月十七日

汽船問屋營業取締規則取扱手續

第一條 汽船問屋營業取締規則以下^{單ニ規}第一條ニ依リ營業願出テタルモノアルハ規則第三條ニ抵觸セサルヤ否精査シ不都合ナキモノハ左ノ指令ヲ爲スヘシ

願書ニハ營業人ノ住所族籍氏名生年月日屋號等ヲ記載セシムヘシ

支店又ハ出張所名前人ハ問屋營業者ト同ク規則第三條ニ抵觸セサルモノヲ適當ノモノト認ムヘシ

指令様式

記號番號 本號八二十三年三月警第六九號警察日誌
規程第六條四項發送番號ノ例ニ依ル

住所 族籍

氏名

年月日 願 船汽問屋營業(支店設置)ノ件允許ス

何署長

官

氏

名印

年 月 日

官

氏

名印

(九三四)

第二條 營業ヲ允許スヘガラサルモノト認メ若クハ規則第三條二項ニ該當スルモノニシテ後改ノ情狀著明ニテ允許スヘキモノト認ムルモノハ其事由ヲ具シ警部長ニ稟議ノ上處分スヘシ既ニ允許シタル後規則第三條二項ニ抵觸シ允許ヲ取消サントスルハ亦同シ

第三條 規則第二條ノ荷客取扱人ニシテ規則第三條二項ニ抵觸スルコトヲ發見シタルハ問屋營業者ニ其旨ヲ示シ荷客ノ取扱ヲ停止セシムヘシ

又荷客取扱人ノ證票ハ可成顯帶セシムヘシ

第四條 看板ニ記スヘキ記號番號ハ允許指令ノ記號番號ナリトス

第五條 暗ニ種々ノ名義ヲ付シ荷客取扱料ヲ乘客荷主ニ請求シ又ハ各驛旅店主ト豫メ牒合シ又ハ客引人ヲ出シ途上ニ徘徊セシメ乗船ヲ勸メ行人ヲシテ嫌厭ノ心ヲ起サシメ營業者ニ於テ妄リニ假切符ヲ發行シ若クハ豫テ車夫等ト牒シ乘客ヲ誘引セシメ報酬ヲ與フルカ如キハ營業者間ノ宿弊ニ付嚴密注意スヘシ

第六條 汽船乘客人名帳ハ難破沈溺等ノ危難アルニ際シ乘客ノ誰タルコトヲ知リ又ハ惡漢ノ逃走其他種々ノ事故上警察取締ニ必要ノモノナルカ或ハ乘客ニシテ族籍氏名等ヲ詐稱スル如キ宿弊アリ宜ク營業者ヲシテ注意記載セシムヘシ
又該帳簿ハ旅舎檢執行ト同時ニ必ス檢査スヘシ

第十八款 航海標識條例

〇勅令第六十七號

廿一年十月十日

航路標識條例

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得
政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

第十九款 水路測量標條例

〇法律第三十八號

廿三年五月廿六日

水路測量標條例

第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ基點標測標トス

第二條 水路測量官ニ於テ民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者ト協議ノ上之ヲ使用スヘシ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第三條 水路測量官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ測量官タルノ證票ヲ携帶

スヘシ

第四條 測量施行ノ爲メ障礙トナル竹木ヲ己ムヲ得ス伐除シ又牆垣籬柵植物等ヲ毀損シタルトキハ所有者ト協議シ相當ノ補償ヲナスヘシ

第五條 基點標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 測標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲テ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第廿款 稚標浮標等保存注意方

○布告第二百九十號 六年八月八日

各所設置ノ稚標浮標ハ内外航路一般ノ標的ニシテ最モ緊要ナルモノニ候然ルニ漁人等浮標ヘ舟ヲ繫キ或ハ稚標ノ階梯ニ上リ候者間々有之赴右等ノ所業ヨリ竟ニ標的ヲ破損シ内外ノ航海者危難ニ陥リ候テハ以テ外ノ儀ニ付キ心得違ヒ無之様可致此旨布告候事

第廿一款 失踪船取扱規則

○遞信省令第六號 二十六年三月十六日

失踪船取扱規則左ノ通相定ム

失踪船取扱規則

第一條 船舶發航ノ後到達港ニ到達セス其所在分明ナラサルトキハ船主ハ左記ノ事項ヲ記シ市長村長ノ加印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

一 船舶ノ名稱、種類、積量、馬力(汽船ナルトキハ)及ヒ船主ノ氏名

二 載貨ノ種類、量目及ヒ其見積代價

三 船舶乗組員及ヒ旅客ノ族籍、身分、氏名、年齢

四 發港地ノ名及ヒ其日時

第二條 前條ノ届出ハ之ヲ官報ニ掲載ス

官報掲載ノ日付ヨリ起算シ内國航海船ニ在テハ六ヶ月外國航海船ニ在テハ一箇年ヲ經過スルモ船舶ノ所在尙ホ分明ナラサルトキハ踪跡ヲ失ヒタルモノト看做シ市町村長ニ於テ其船籍ヲ削除スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

第三條 船籍ヲ削除セラレタル後其船舶ノ所在ヲ發見シタルトキハ船主ハ其旨ヲ記シ市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ其船籍ヲ復活スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

第三章 堤防河岸地

第一款 河岸地取締規則

○縣令第貳拾四號 二十一年四月九日(廿二年縣令三十九號ニテ)

河岸地取締規則別冊之通相定メ人民輻湊ノ地ヲ區畫シ來ル十月一日ヨリ實施ス但シ明治十二年租布第四十五號布達ハ本文實施ノ日ヨリ廢ス

河岸地取締規則

第一章 總則

第一條 河岸地トハ舟楫ノ通スル水部ニ沿ヒタル土地ヲ云フ

第二條 河岸地ヲ分テ二類トス貨物陸揚舟積ノ用ニ供スル物揚場ヲ第一類トシ宅地物干場等ノ用ニ供スル地ヲ第二類トシ專用或ハ共用セントスルモノハ總テ第一類民官ノ許可ヲ受クヘキモノトス

但水部ニ關スル工事ヲ營ントスルモノハ官ノ許可ヲ經テ施行スヘシ

第三條 第一類地ヲ分テ三部トス

第一 共同物揚場官有地第三種地官ニテ其區域ヲ畫シ共同陸揚舟積ノ用ニ供スルモノ

第二 專用物揚場官有地第二種地種地租及地方稅ヲ賦課セシ民有地第一官用地及ヒ民有地内ニ於テ貨物陸揚舟積等ノ

爲メ開設シ專用又ハ供用スルモノ

第三 臨時物揚場官有地第三種地官ニテ其區域ヲ畫シ期限ヲ定メ專用シ又ハ專用セシムルモノ

積等ノ必用アルモノハ官ニテ其區域ヲ畫シ期限ヲ定メ專用シ又ハ專用セシムルモノ

第四條 第二類地ヲ分テ二部トス

第一 借用河岸地官有地第三種地物揚場ニアラスシテ宅地物于場等ノ用ニ供スルモノ

第二 自用河岸地官有地第一種地物揚場ニアラスシテ宅地物于場等ノ用ニ供スルモノ

第五條 總テ物揚場ノ用ニ共スル地ハ官民有地ヲ問ハス非常ノ節ニ限リ官ニ於テ使用スルコトアルヘシ

第二章 共同物揚場

第六條 貨物陸揚舟積ハ日出ヨリ日没迄ヲ限ルト雖モ不得止夜間ニ至ル時ハ標燈ヲ掲揚スヘシ

第七條 陸揚舟積ノ物品ハ總テ宿留セシムルコトヲ得スト雖モ他ノ物品ノ運搬等ニ支障ナキモノハ此限ニアラス

第八條 此物揚場ニ於テ工業石ヲ碎破シ或ハ之ヲ削リ木材ヲナスコトヲ得スヲ行フコトヲ得ス

但シ不得止場合ニ於テ官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ非ス

第九條 使用ノ爲メニ該地ヲ毀損シ又ハ塵芥汚穢物等散布シタルモノハ其使用セシモノヨリ修理及掃除ヲ加フヘシ

第三章 專用物揚場

第十條 官用地並ニ民有地内ニ貨物陸揚舟積ノ爲メ開設シタル物揚場專用ノ權ハ所有者ノ自由タルヘシ

リト雖モ取締ニ關スル件ハ第二章ノ各條ヲ適用ス

第十一條 專用ノ區域ニハ圍ヲ設ケ第四章第十三條雖形ニ準シ標木ヲ建設スヘシ

第四章 臨時物揚場

第十二條 起業者ノ官民ニ拘ハラス公益ノ爲メ陸揚舟積ニ共同物揚場内ヲ必用トスル時ハ官ノ許可ヲ得テ土地ノ廣狹ニ從ヒ三分ノ二迄ノ地ヲ專用スルコトヲ得

第十三條 前條ノ場合ニヨリ專用スル時ハ第三章第十一條ニ準據シ其專用スヘキ部分ヲ畫シ圍ヲ設ケ且ツ左ノ雖形ノ通り標札ヲ掲クヘシ否ラサレハ專用ノ權ナキモノトス

但シ官ニ於テ專用ノ節ト雖モ本條ニ準ス

標札雖形板札

豎壹尺五寸

横七寸

從何月何日

至何月何日

專用願濟

何國何郡何村

何ノ某

第五章 借用河岸地

第十四條 第二類第一節ノ借用河岸地免許期限ハ五ケ年以内タルヘシ初年ハ貸渡ノ過速ニ拘ハラス一ケ年ニ計算スヘシ右期ヲ過クレハ免許ノ効ハ消滅ス

但シ借用年季中ト雖モ若シ一般公益ノ爲メ其地ヲ必要トスルモノハ返付セシムルコトアルヘシ

第十五條 借用河岸地ニ居住ヲ構ヘ又ハ居住ニ非サルモ火焚所ヲ設クルコトヲ得スト雖モ特ニ官ノ許可ヲ受ケ及ヒ從來既ニ居住ヲ構ヘタル場所ハ此限ニ非ス

第十六條 借地料ハ地價百分ノ八ヲ以テ一ケ年ノ額トシ免許ヲ得タル月ヨリ月割ヲ以テ納ムヘシ

其他價ヲ定ムルハ河岸地接近ノ民有地五ヶ所乃至十ヶ所ノ地價平均ヲ以テ標準トス

第六章 自用河岸地

第十七條 此地所ハ所有者ノ自由タリト雖モ左ノケ條ヲ遵守スヘシ

一 棧橋ヲ築出スヘカラス

但水利舟行ノ妨碍トナラス且容易ニ架撤シ得ヘキモノニシテ官ノ許可ヲ得ルモノハ此限ニ

アラズ
一 水部ニ塵芥ヲ捨ヘカラス
一 水際ヲ堅牢ニ修理スヘシ

第二款 河岸地取締規則施行區域

○本縣告示第八十二號 廿一年九月廿九日

本年^四縣令甲第二十四號河岸地取締規則左記ノ町村へ實施候條此旨心得ヘシ

東國東郡 古市村 鶴川村 田深村 西國東郡 高田村 玉津村

速見郡 杵築村 日出村 豐岡村 別府村 濱脇村 大分郡 大分町 生石村

乙津村 鶴崎町 南海部郡 佐伯村 北海部郡 白杵町 福良村

大野郡 下津尾村 日田郡 庄手村 隈町 竹田村

宇佐郡 江洲賀村 長洲村 下毛郡 中津町 今津村

第八編 道路及郵便電信

第一章 道路橋梁渡船場

第一款 街路取締規則

○本縣令甲第五十七號 二十年七月十五日

街路取締規則別紙ノ通相定來ル十月一日ヨリ施行ス

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道路ニ沿フタル下水並橋梁トス

第二條 本則ハ左ノ市街ヲ以テ施行區域トス

豐後國大分郡 大分町 全南海部郡 佐伯村 全北海部郡

白杵町 全直入郡 竹田町 全日田郡 豆田 隈町 全速見郡

別府村 濱脇村 日出村 杵築村 南杵築村

豐前國下毛郡 中津六十三ヶ町村

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルハ官ニ於テ

執行シ其費用ヲ徵收ス

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スヲ得

一 釣看版ハ地盤ヲ距一丈以上ニ限リ一尺五寸以内 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺

六尺以上ハ五寸以内 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内 四 掲

燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内 五 營業ノ爲メ一時街路ニ物品ヲ積ミ置ハ二尺

五寸以内 六 神佛祭典縁日等ノ節一時路傍ニ露店ヲ出シ物品ヲ排列スルハ不苦ト雖通行ノ

妨害トナルハ速ニ取除カシムヘシ

第六條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添へ所管警察署又ハ分署ニ願出允許ヲ請フヘシ

一 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ華表ヲ建設スル事 二 工事ノ爲一時通行ヲ停止スル事 三 街

路ニ床店屋臺葺張等ノ類ヲ設クル事 四 街路ニ街燈及指道標其他公衆ノ用ニ保スル標識ヲ建設スル事 五 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事 六 工事ノタメ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事 八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典)小屋掛(神佛祭典)及店飾ヲ設クル事 九 街路ニ神輿山車手踊屋臺ヲ出ス事 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ車ニテ運搬スル事 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事 十二 車馬通行停止ノ榜示アル場所ヘ車馬ヲ出入スル事 十三 街路ニ於テ公衆ノ用ニ供スル便所ヲ建設スル事

第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ其原狀ノ地盤ニ修復スヘシ

第八條 街路ニ臨ミタル軒櫓ニハ軒櫓及豎樋ヲ設クヘシ其豎樋ハ家屋ニ付着スヘキモノトス但櫓溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス

第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ道敷ノ境界ニ塙塙ヲ設クヘシ但特ニ允許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木類ヲ立置キ又ハ薪炭等ヲ積置クハ鐵鎖若シクハ繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ頭仆モサル様堅固ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞若クハ頭仆ノ虞アルモノハ速ニ相當ノ處置ヲナシ其危險ヲ防クヘシ

第十二條 街路ニ竹木土石類ヲ置クハ標識ノ點燈ヲ設クヘシ

第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クヘシ

第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十五條 道路橋梁下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ其芝草ヲ剝取リ若クハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條 制札指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス

第十七條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ繩綯荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシム可ラス

第十九條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ濫リニ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ高聲放歌シ若クハ喧噪シ又ハ偃臥ス可カラス

第二十二條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ袒裼又ハ裸體ヲ爲スヘカラス

第二十三條 街路ニ沿フタル場所ニ便所ヲ私設スヘカラス

第二十四條 街路ニ於テ蓋ナキ糞桶ヲ運搬スヘカラス

第二十五條 行商ニ用ユル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十六條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草等ヲ存ス可ラス

第二十七條 積雪ハ時々掃除シテ堆積セシムヘカラス其掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ヘ投棄スヘシ

第二十八條 炎天及ヒ風日ニハ可成時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但十二月一日ヨリ二月二十八日マテハ午前九時前午後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ノ掃除ハ兩側居住人(官署及官署用地)ニ於テ分擔シ其片側ナルハ一方ノ居住人ニ於テ地先キ全部ヲ負擔スヘシ但空屋空地ニ係ルハ其所有主ノ負擔トス

- 第三十一條 橋上其他負擔者ナキ道路ノ掃除ハ其町村ニ於テ負擔スヘシ
 - 第三十二條 宅前下水ノ浚渫ハ該地主(官署及官署用地)ニ於テ負擔シ其組合持ナルハ當番者ヲ定メテ之ヲ浚渫シ大下水及横切リ下水ハ町村ニ於テ負擔スヘシ
 - 第三十三條 制止ヲ肯セスシテ溝渠等ノ汚水其他汚穢物ヲ洗滌シタル水ヲ路上ニ洒注スヘカラス
 - 第三十四條 土芥瓦礫禽獸ノ死屍及ヒ汚穢物ヲ溝渠下水川堀又ハ街路ニ投棄スヘカラス
 - 第三十五條 街路ニ設置セル便所ハ時々清潔ニ掃除スヘシ
 - 第三十六條 塵芥燒捨場及汚泥埋沒場ハ便宜ノ地ニ設クヘシ
 - 第三十七條 街路ニ於テ便所ニ非サル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
 - 第三十八條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃ヒ又ハ塵埃ノ飛散スル所業ヲ爲スヘカラス
 - 第三十九條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス
 - 第四十條 橋欄ニ物ヲ懸クヘカラス
 - 第四十一條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ襤褸其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ懸ケ置クヘカラス
- 第四章 街路ノ通行
- 第四十二條 牛馬及諸車ハ道ノ中央ヲ通行スヘシ
 - 第四十三條 牛馬及諸車歩行者行逢フキハ互ニ左ニ避ケ軍隊及砲車輜重車ニ逢フキハ右ニ避クヘシ
 - 第四十四條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 - 第四十五條 前車徐行シ後車疾行セントスルキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
 - 第四十六條 郵便用消防用ニ供スル車馬及ヒ葬送等ニ行逢フキハ避讓スヘシ

- 第四十七條 街角橋上及狹隘若クハ雜沓ノ場所ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
- 第四十八條 車馬街角ヲ通行スルキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
- 第四十九條 牛馬諸車及其他ノ物件ヲ街路ニ横へ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十條 一時車輛ヲ路傍ニ駐止スルキハ其側面ヲ街路ニ向ケ置クヘシ
- 第五十一條 制止ヲ肯セス空車ヲ輓テ彷徨シ又ハ竹立シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十二條 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽セニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十三條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス
- 第五十四條 小兒車ヲ除ク外跡推ノミニテ諸車ヲ運轉スヘカラス
- 第五十五條 馬車及牛車ハ幅員二間未滿ノ道路ヲ通行スヘカラス但街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルハ此限ニアラス
- 第五十六條 牛馬諸車ヲ並へ牽キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十七條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜沓ノ地ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス
- 第五十八條 車二輛以上ヲ連繫シテ牽ク可カラズ但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス
- 第五十九條 通行ノ妨害ナラサル様三頭ノ牛馬ヲ連繫シテ牽クハ不苦ト雖モ其四頭以上ハ繫牽スルヲ得ス但賣買等ノ爲メ輸送スルキハ此限ニアラス
- 第六十條 未口尖リタル竹木等ヲ運搬スルキハ其末口ヲ纏束スヘシ
- 第六十一條 街路ニ於テ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フ可カラズ
- 第六十二條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ看護人ナクシテ五歲未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
- 第六十三條 制止ヲ肯セス街路雜沓ノ地ニ於テ紙鳶ヲ掲ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス

(二五四)

第六十四條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ軍談輕業其他人寄ヲ爲スヘカラス

第五章 罰例

第六十五條 第十一條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 第四條第六條第十三條第十六條第三十四條ニ違フ者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以上ノ科料ニ處ス

第六十七條 第十條第十五條第十七條第十八條第二十一條第二十二條第二十四條第二十五條第三十三條第三十七條第三十八條第三十九條第四十一條第五十一條第五十四條第六十二條第六十三條第六十四條ニ違フ者及ヒ第七條第八條第九條第二十六條第二十七條第二十八條第三十二條第三十五條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セス並ニ第六十條ニ違ヒ制止ヲ肯ンセサル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第六十八條 第十九條第二十三條第五十五條第五十八條第五十九條ニ違フ者及ヒ第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條ニ違ヒテ他人ノ妨害ヲナシタル者及ヒ第二十九條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第六十九條 第十五條第十四條第二十條第四十九條第五十二條第五十三條第五十六條第五十七條ニ違フ者ハ刑法ニ依リ罰セラルヘシ其他第四條第十一條第十五條第十六條第十九條第二十一條第二十九條第三十四條第六十一條ニ掲ケタル條項中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノ亦全シ

第二款 街路取締規則取扱手續

○本縣警第一五四九號 二十年八月二十九日
街路取締規則取扱手續左之通り相定ム

街路取締規則取扱手續

第一章 通則

第一條 規則執行ノ要領ハ往來交通ノ安全ヲ保護シ妨害或ハ危險ヲ豫防スルニ在リ執行者宜シク爰ニ注意スヘシ

第二條 規則第三條ノ場合ハ再應督促スルモ應セサルニ於テ相當處分ヲ爲スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 執行者ハ本則第四條ニ違背スルモノ及第五條ノ制限ヲ超過スル者ナキ様最モ注意スヘシ

第四條 本則第六條ニ依リ願出ル者アルハ左ノ例ニ據リ許否スヘシ

一 第一項ノ願出アルハ通行ノ繁閑ト道幅ノ廣狹トヲ計リ妨害ナシト認ムルモノハ許可スヘシ

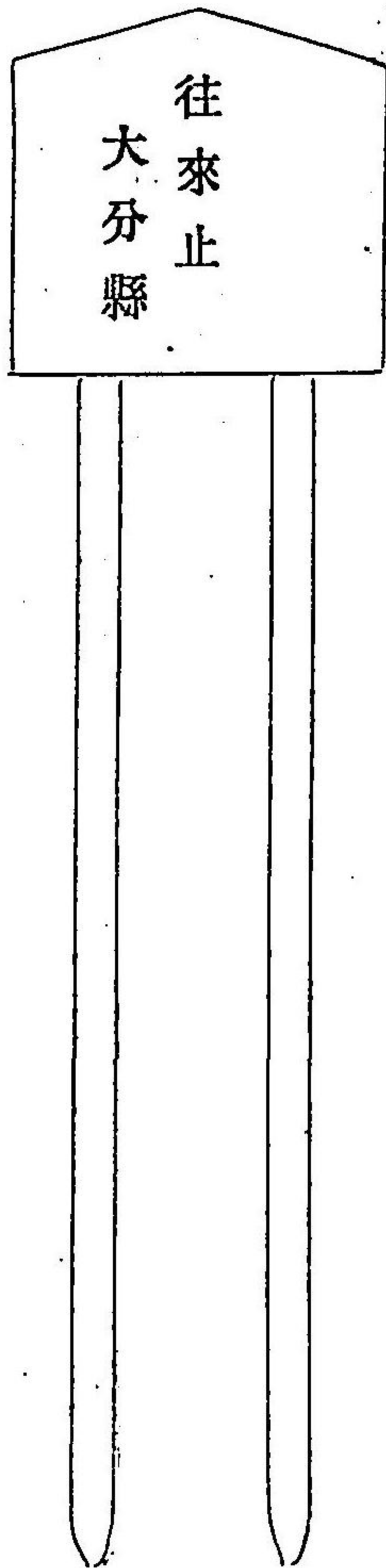
二 第二項ノ願出アルハ實地檢査ノ上許可シ左ノ雜形ニ倣ヒ榜示ヲ建設スヘシ但片側ニ係ルハ其旨記入スヘシ

寸法

豎テ二尺

横 一尺

柱 五尺



(三五四)

前項許可ヲ與ヘタルハ其地名及國道縣道並願日數等ヲ詳記シ警察本部ニ報告スルヘシ警察本部ハ其國縣道ニ係ルモノハ所管鎮臺若クハ營所へ通報ノ手續ヲ爲ス可シ

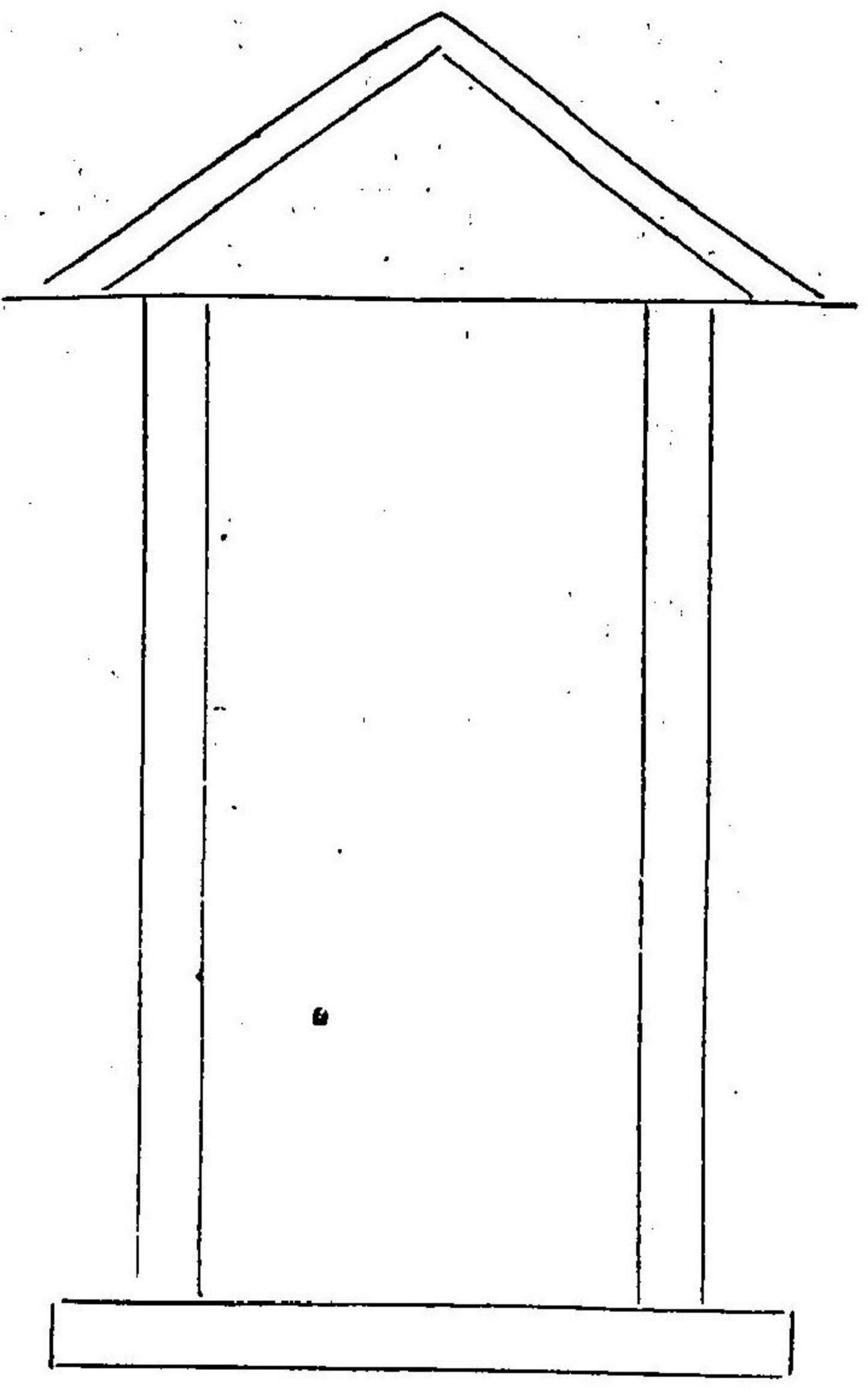
三 床店屋臺葺張ハ通行ノ妨害及街路ノ体面ヲ損セサルモノニ限り許可スルヲ得ルト雖モ

臨時取拂ヲ命スルコトアル可キニ付其用意ヲ爲サシムヘシ
 行商車及荷擔商ノ者久敷一所ニ留リテ販賣スルハ通行ノ妨害ト爲ラシメサル様注意スヘシ
 四 第四項第十一項ノ願出アルハ通行ノ妨害ナシト認ムル者ハ許可スヘシ 五 第五項ノ願出アルハ通行ノ繁閑道幅ノ廣狹トヲ計リ妨害ナシト認ムルモノハ道敷一尺五寸以内ヲ限り許可スヘシ 六 六項ノ願出アルハ道幅ノ廣狹通行ノ繁閑及ヒ必要ノ如何ニ依リ道敷三尺以内ニ於テ適宜尺度ヲ定メ日數ヲ限リテ許可シ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ掲ケシムヘシ其日限内ト雖モ使用終レハ直ニ之ヲ取除キ標札ヲ撤去セシムヘシ 七 第八項第九項第十項ノ願出アルハ往

何年何月何日ヨリ
何年何月何日マテ
長何間
幅何間
使用願濟
何郡何町
何村
誰

來ノ妨害トナラサルモノニ限リ日數ヲ定メ許可スヘシ 八 第十二項ハ郵便又ハ工事ノ爲メ出入スルモノニ限リ許可スヘシ 九 第十三項便所ハ一市街ニ其數ヲ限リ許可シ且其構造方ハ左ノ雛形ニ倣ヒ建設セシムヘシ

豎テ 五尺
 横 三尺



第五條 軒樋及豎樋ノ設ナキモノハ本則第八條ニ據リ此際總テ之ヲ取設シメ其茅屋等ニシテ軒樋ヲ設ケ難キ者ハ檐滴ノ溝渠ニ落下スル様致サスヘシ
 第六條 第九條ノ特許ヲ願出タルトキハ稟議ノ上許可スヘシ
 第七條 巡行巡查第十六條ノ違犯ヲ認メ其犯人ノ誰タルヲ知ル能ハサル場合ト雖トモ署長ニ申告スヘシ其貼紙ハ直ニ之ヲ撤除スヘシ

第三章 街路ノ清潔
 第八條 第廿六條第廿七條第廿八條ノ義務ヲ怠ルモノアルハ一般人民ハ巡行巡查ニ於テ督促シ本縣所屬官署ニ係ルハ警察署又ハ分署ヨリ督促シ再三ニ及ヒ尙其義務ヲ盡サ、ルトキ及他ノ官衙ニ係ルハ之ヲ本部ニ詳報スヘシ但戸長役場ニ係ルハ巡行巡查ニ於テ之ヲ促シ應セサルトキニ

於テハ本文ノ手續ヲナスヘシ
第九條 過量ニ水ヲ洒テ街路ヲ泥濘ナラシメサル様巡行巡查ニ於テ注意スヘシ
第十條 第二十九條淤泥等留メ置クモ止ムヲ得サル場合ニ在テハ相當ノ時間ヲ定メ猶豫ヲ與フルモ妨ケナシ
第十一條 第三十八條ヲ犯シ制止ヲ肯セサルカ如キハ相當ノ處分ヲ爲シ其他ハ可成戒諭ニ止ムヘシ

第四章 街路ノ通行

第十二條 通行法ニ關スル規程ニ違フ者アルヲ認メタルキハ捨置ナク説諭ヲ加フヘシ爲メニ妨害ヲナシタルキハ相當ノ處分ヲナスコト勿論ナリトス

第十三條 商品荷物其他ノ物件ヲ路傍ニ積堆又ハ陳列シタルキハ通行ノ妨害ト否トヲ問ハス巡行巡查ニ於テ認メ次第之ヲ取除カシムヘシ其通行ノ妨害ヲ爲シタルモノハ第四十九條ニヨリ相當處分スヘシ但シ荷物積下シ其他一時止ヲ得サル場合ニ在テハ通行ノ妨害ナキモノニ限り斟酌スヘシ

第十四條 通行繁劇ノ街路ニ於テハ殊ニ第六十二條第六十三條ニ注意シ他ノ妨害ト危險トヲ豫防スル爲メ豫テ其父兄ニ忠告シ置クヘシ

第十五條 執行官吏街頭ニ於テ人民ヘ對シ説諭若クハ命令スル場合多人數群集シテ之ヲ見聞セントシ通行ノ妨害ヲ爲スルハ穩ニ之ヲ制シ散去セシメ又ハ通行ノ妨害ヲ避ケ説諭スヘシ

第五章 違犯者處分

第十六條 規則違犯ノ處分ハ通行人ニ妨害ヲ與ヘ又ハ制止ヲ肯セス若クハ再三説諭スルモ之レニ服從セサル者ヲ處分シ其他ハ可成嚴戒説諭ニ止メ行政警察ノ周到ヲ期スヘキナリ

第十七條 本則ハ專ラ大分町外七十三ヶ町村ニ適用スヘキモノナレハ其他ノ町村ニシテ取締ヲ必要ト認ムルケ所ハ本則ノ意ヲ藉リ單ニ實行上ノ取締ヲナスヘシ

第三款 街路取締ニ關スル雜件

○保第三六三號

廿年四月廿日

(警部長訓示)警察署長分署長

本月十六日南海部郡警察署ヨリ街路取締規則第五條第三項制限以外ノ日覆ニシテ其構造ノ仕様ハ支柱ヲ用ヒス向合セノ軒ニ材木ヲ架シ之ニ麥藁又ハ木綿等ヲ以テ日覆ヲ爲シ高サ一丈以上ニシテ人馬等通行ノ妨害トナラス又不体裁ナキ者ハ特ニ認可候様致度旨伺出ニ對シ同月十八日聞届ラレタルニ付將來同様ノ請願アルキハ所轄警察官署ニ於テ右ニ準シ取扱フコトヲ得

第四款 道路取締規則

○本縣令甲第六拾壹號

廿三年十一月廿一日

道路取締規則左ノ通改正シ來ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

道路取締規則

- 第一條 本則ニ道路ト稱スルハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ道路トス
- 第二條 道路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス
- 第三條 左ノ諸件ニ係ルモノハ道路ニ出スコトヲ得
 - 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ一尺五寸以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺、六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
 - 五 營業ノ爲メ一時物品ヲ積置クハ二尺五寸以内
 - 六 祭典緣日等ノ節一時路傍ニ露店ヲ出シ物品排列若シカラスト雖モ通行ノ妨害トナルトキハ速ニ取除カシムヘシ
- 第四條 左ノ諸件ニ係ルモノハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出允許ヲ請フヘシ

- 一 諸祭典ノ爲メ一時道傍ニ樹木ヲ植エ又ハ華表ヲ建設スルコト
- 二 道路橋梁等工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スルコト
- 三 道路ニ諸燈(瓦斯燈トランプノ類)及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スルコト
- 四 道路ニ床店屋臺葎等ノ類ヲ設クルコト
- 五 工事ノ爲メ一時道路ニ竹木土石類ヲ置キ其他道路ヲ使用スルコト
- 六 道路ニ一時消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置クコト
- 七 道路ニ於テ公衆ノ用ニ供スル便所ヲ建設スルコト
- 第五條 道路ニ沿フタル場所ハ竹木類ヲ立置キ又ハ薪炭等ヲ積置クトキハ鐵鎖若クハ繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ顛仆セサル様堅固ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第六條 道路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ
- 第七條 道路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞若クハ顛仆ノ虞アルモノハ速ニ相當ノ處置ヲナシ其危險ヲ防クヘシ
- 第八條 道路ニ於テ諸作物ノ收納ヲナシ又ハ繩綯木挽荷造等ノ爲メ交通ノ妨害ヲナスヘカラス
- 第九條 牛馬及諸車歩行者行進フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊及砲車輜重車ニ逢フトキハ右ニ避クヘシ
- 第十條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 第十一條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 第十二條 郵便用消防用ニ供スル車馬及葬送等ニ行進フトキハ避讓スヘシ
- 第十三條 道路ノ曲リ角橋上及ヒ狹隘若クハ雜沓ノ場所ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
- 第十四條 車馬道路ノ曲リ角ヲ通行スルモノハ右ハ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲ爲スヘシ
- 第十五條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス

馬車及荷馬車ハ夜中燈火ヲ點スヘシ

- 第十六條 一時車輛ヲ路傍ニ駐止スルモノハ其側面ヲ路傍ニ向ケ置クヘシ
- 第十七條 諸車二輛以上連繫シテ牽クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限リニアラス
- 第十八條 牛馬四頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限リニアラス
- 第十九條 小兒車ヲ除ク外跡押ノミニテ諸車ヲ運轉スヘカラス
- 第二十條 乗用ニアラサル車馬ニ輓手又ハ口取ヲ附セスシテ乗ルヘカラス
- 第二十一條 牛馬ヲ牽クニハ其前頭三尺以内ニ於テスヘシ
- 第二十二條 第七條ニ從ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十三條 第四條ニ違フモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十四條 第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條第二十条第二十一條ニ違ヒ他人ノ妨害ヲ爲シタルモノハ一日ノ拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 第五條第六條第十九條ニ違フ者及第八條ニ違ヒ制止ヲ背セサルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十六條 第十五條第一項ニ違フモノハ刑法第四百二十七條第三項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十七條 第十五條第二項ニ違フモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第五款 道路取締規則實施以外ノ道路ニ關スル取締方標準

〇保第二九七號 廿四年四月八日

道路取締規則實施以外ノ道路ニ關スル取締方標準左之通定メラル

- 一 道路取締規則實施以外ノ道路ニ關スル取締ハ道路取締規則ノ旨意ニ準シテ注意スヘシ
- 二 左ノ市街地ニ在ツテ道路取締規則第四條ノ諸件ニ係ルモノハ從前ノ例ニ依リ所管警察署又ハ分署ニ願出シメ許否スヘシ

大分郡西大分町 鶴崎町大字鶴崎

速見郡豐岡村字頭成

東國東郡國崎村大字鶴川

西國東郡玉津村大字玉津

宇佐郡宇佐町大字南宇佐

長洲村大字長洲

下毛郡大江村大字蠣瀬角木

玖珠郡森村大字森

直入郡玉來村大字玉來

大野郡三重村大字市場

北海部郡佐賀關町大字關

高田町 四日市村大字四日市

豐田村大字島田

住久村 犬飼村大字犬飼

- 三 前項市街地外ノ道路ニテ道路取締規則第四條二項七項ニ係ル件ハ所管警察署又ハ分署ニ願出シメ許否スヘシ
- 但其他ノ事項ハ駐在巡查ニ届出 届書ヲ故ラ徴セシメ其届ヲ受ケタル巡查ハ便宜所屬署ニ報告セシムヘシ

四 明治二十年^{十月}訓令甲第八十五號並大分縣警察官吏配置及勤務規程第廿六條四項ニ係ル件ハ前項ノ例ニ依リ便宜駐在巡查ニ委任シテ取扱シメ所屬署ニ報告セシムヘシ

第六款 道路取締ニ關スル雜件

〇保第四一二號 廿四年四月三十日

本月廿二日佐賀關分署長ヨリ從來商業ノ種類ニ依リ旗柱ヲ建設スルノ慣習アルモノニテ摺端ニ接シ道路ニ建設セントスルモノニシテ通行ノ妨害トナラス又道路ノ体裁ヲ損セサルモノハ分署限リ許否致度旨伺ニ對シ同日電信柱木建設ナキ道路ニ旗柱ヲ建設スルハ聞届ク旨指令相成候ニ付將來同様ノ件アルトキハ右ニ準據シテ取扱フコトヲ得

〇保第四四二號 廿三年七月廿二日

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ニ付別紙之通内務大臣ヨリ訓令アリタリ訓令第四七二號 廿三年七月十六日内務大臣訓令

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル妙ナカラサル處ナルニ依リ右等通行止ヲ爲ス場合ニ於テハ事實精査ヲ遂ケ工事上大ナル支障アルカ又ハ通行ニ危険ノ虞アルモノヲ除クノ外ハ可成一般交通ノ便ヲ欠カサル様注意セララルヘシ

〇訓令甲第八十五號 二十年十月廿二日

街路取締規則施行區域外ノ地ニ於テ神社祭典等ノ節街路ニテ山車手踊屋臺等ノ賑ヲナサントスル者ハ自今所轄警察署分署へ願出允許ヲ請ハシムヘシ

〇保第七八一號 廿四年八月八日

交通警察保安上道路破損ノ箇所修繕ノ儀ニ付テハ毎々及訓示候處尙左ノ通心得ラルヘシ

- 一 交通頻繁ノ道路ニシテ破損ヲ認メタル時ハ崩壞凹凸等ノ危険アル者ハ假ニ適宜ノ目標ヲ施シ一時豫防ノ手當ヲ爲スト同時ニ駐在巡查ニ於テ町村役場ニ通知シ修繕ヲ促スヘシ但國縣

相成候條此旨免許人へ示達スヘシ

曲尺二寸五分

第 號
何國
○何地郵便電信(電信局)
集配人
何配人
誰

○明治年月日
何何
郵便電信局
電信局
地國

○訓令甲第十七號 二十四年五月六日
人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治廿二年一月訓令
甲第壹號ヲ以テ及訓令置候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者モ同様賃錢請求不相成候條此旨更ニ免許人
へ示達スヘシ

二寸五分

第 號
何國
○何地電信取扱所配達人
何何
誰

○明治年月日
何何
取電何何
扱
所信地國

○大分縣訓令第四十三號 二十七年六月二十二日
人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等本年勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防
組員ニシテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨

豫テ免許人へ示達シ置クヘシ

第二章 鐵道

第一款 鐵道略則

○布告第四百六十六號

五年五月三日

第六十一號布告鐵道略則別紙ノ通改正候條此旨相達候事
但開局日限ノ儀ハ治定ノ上追テ可相達候事

鐵道略則

第一條 賃金ノ事 何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ル
ヘシ然ラサレハ決シテ列車ニ乗ル可ラス

第二條 手形検査及渡方ノ事 手形検査ノ節ハ改ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ検査ノ節手形ヲ
出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サハル者ハ更ニ最初發車ノステーションニ於テ旅客ノ乗リ下リ荷物ノ積ミ下
所ヲ爲スヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確證判然タル時ハ其乘リタル
場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中(ステーション)ニテ乗組并手形ノ事 途中(ステーション)ニ於テハ列車ノ餘地ノ有
無ニ應シテ乘リ組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ
最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘込ムコトヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アル時
ハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乗ルコトヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事 何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又
ハ拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乘ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過
キ増賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到

リナカラ車ヨリ下リ去ルヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事 總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乗ルコトヲ禁ス

第六條 痲瘡等ノ病人ヲ禁止スル事 痲瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外并鐵道構外ヘ退去セシムヘシ

第七條 吸烟并婦人部屋男子出入禁止ノ事 何人ニ限ラス(ステーション)構内吸烟ヲ禁セシ場所并ニ吸烟ヲ禁セシ車内ニテ吸烟スルコトヲ許サス且婦人ノ爲メニ設アル車及部屋等ニ男子安リニ立入ルヲ許サス若右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒ヲ用ヒサル者ハ車外并ニ鐵道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事 何人ニ不限總テ列車乗組中又ハ(ステーション)并鐵道構内ニテ醉ニ乘シ安狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事 何人ニ不限限リニ(ステーション)其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建築家柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ處置スヘシ

第十條 機關車等へ乗込ヲ禁スル事 機關方并火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乗ラント爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許シヲ得スシテ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設タル車ニ乘リ又ハ乗ラント爲ス可カラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛ノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直ニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所へ安リニ立入者取扱方ノ事 何人ニ不限(ステーション)又ハ鐵道構内へ安リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事 旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリモ總テ之カ爲メニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取證書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且賃金モ五拾圓ニ過クルコトナシ

第十三條 高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事 金銀紙貨幣郵便切手(爲替會社通用券)爲替手形約定證書金銀請拂證書地所建築券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鐫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作品類及硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等ヲ明白ニ其掛へ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事 牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニハ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛へ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サ、ル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛一疋金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金五十圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條 砲發ヲ禁スル事 何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運送ヲ禁スル事 (鐵道寮)ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトローリヤム」「ケロシン」「ライル」「トルメンタイ」「石炭油等」硝性并ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ(十八年四月工部省第十四號告示ヲ以テ火藥類鐵道運送) (條例ヲ定ム火藥取締規則ノ末尾ニ編纂スヘシ)

第十七條 荷物目録ヲ渡スヘキ事 運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出ス可シ

第十八條 物品並畜類損害方定限ノ事 鐵道ニテ運送スル物品並畜類紛失損害アリトモ鐵道掛ノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事 何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙拂ハサル時ハ其荷物ノ全部又

ハ部分ヲ留置キ若又其荷物既ニ他所ニ運送セシ時ハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛ヘ送來ルコアル時ハ之ヲ留置キ同人ヘ告知ラセタル上ニテ滯金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返ス可シ又時宜ニヨリ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並入費等ヲ取立ルコモアル可シ

第二十條 規則ニ從ハサル者ノ事 何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乗車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サハルヘシ

第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事 此規則中變革及加除アルトキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條 荷物運送引請方ノ事 諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條 此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ〔鐵道頭〕或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條 旅客並荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達ス可シ

尤〔鐵道頭〕鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコモアルヘシ

第二十五條 此規則來ル五月七日ヨリ施行ス可シ 右ノ條々此度確定候事

第二款 鐵道犯罪罰例

○布告第百一號

六年三月

壬申第四百七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルキハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第二條 規則第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其物品壹噸斤ヲ云每ニ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス壹噸

以下ハ拾圓以内尤一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコアルヘシ但其價金ノ追徵モ〔鐵道寮〕ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追徵スヘシ

○布告第二十三號 (工部卿) 十六年七月十日

明治五年(五月)第百四十六號布告鐵道略則及同六年(三月)第百一號布告鐵道犯罪罰例ハ私設鐵道ニモ適用ス

第三款 軌道條例

○法律第七十一號

廿三年八月廿三日

軌道條例

- 第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ內務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得
- 第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲メ起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得
- 第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及ヒ新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

第四款 私設鐵道條例

○勅令第十二號

廿年五月十七日

私設鐵道條例

- 第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ鐵道ハ本條例ノ定ムル所ノ限ニアラス
- 第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 第一 社名及本社所在地
 - 第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但畧圖ヲ添フヘシ
 - 第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額
 - 第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算
 - 第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ
- 第三條 政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ查閱シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルキハ假免狀ヲ下附シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ
- 既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルキハ願書ヲ却下スヘシ
- 第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審查シ妥當ナリト認ムルキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ
- 第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ着手スルコトヲ得ス
- 第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ鐵道布設工事ニ着手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルキハ少クトモ二ヶ月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但シ其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス
- 第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス
- 第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス
 - 第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス
 - 第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地
 - 第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及ヒ機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地
 - 第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地
- 第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルキハ所

管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ牆柵門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルハ鐵道局長官ニ届出ヘシ

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不完全ナリト認ムルハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ但シ其土地ニ建物アルハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但シ其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及ヒ停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但シ政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナスハ其實費ヲ支辨スヘシ

第十九條 明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ

第一 下等旅客二十人ノ座位ニ當ル積量 一哩ニ付金壹錢五厘以内

第二 一車(四噸積)貨物 一哩ニ付金五錢以内

但シ車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乗車セシムヘシ但シ其官吏ハ常乗切手ヲ帶フル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍々人軍屬及ヒ警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工銀兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但シ其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乗車セシムヘシ

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ

平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載卸用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 鐵道局長官又ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若クハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近若クハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルハ會

- 社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ
- 第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ
- 第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ增加スル場合ニ於テハ少クモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ
- 第三十條 列車發着時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルキハ鐵道局長官ニ報告スヘシ
- 第三十一條 會社半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差出スヘシ
- 第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但し其額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス
 - 第一 資本勘定 軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ係ル出納
 - 第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納
- 第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ
 - 一箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ニ係リ雙方ノ議協ハサルキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ鐵道局長官ノ裁定ハ終局トス
- 第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五ケ年ノ後(特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿期後)ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權ヲ有スルモノトス
- 第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルキハ前五ケ年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムヘシ
- 第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三ケ月以内ニ鐵道布設工事ニ着手セス又ハ豫定期限及延期内ニ竣功セサルキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但し事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ
- 第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルキハ會社其賠償ノ責ニ任スヘシ
- 第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事ニ着手シタルキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但シ營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス
- 第四十條 鐵道運輸開業會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但シ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス
- 第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 郵便電信

第一款 郵便條例

- 布告第五十九號 十五年十二月十六日
- 郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス
- 右奉 勅旨布告候事
- 郵便條例目次

第一章	郵便物	第二章	郵便税
第三章	郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙	第五章	書留郵便
第四章	免稅郵便	第七章	別配達郵便
第六章	郵便物遞送配達	第九章	留置郵便
第八章	郵便私書函	第十一章	郵便沒書
第十章	貨幣封入郵便	第十三章	驛遞局貯金
第十二章	郵便爲替	第十五章	罰則
第十四章	外國郵便		

第一章 郵便物

- 第一條 凡郵便物別テ五種ト爲ス
- 一 書狀
 - 二 郵便葉書及往復葉書
 - 三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録
 - 四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙營業品ノ見本及雛形
 - 五 農産物種子(號ヲ以テ五種ヲ置カル)
- 第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得
- 第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ
- 第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
- 一 截斷又ハ破却シタルモノ
 - 一 稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ
 - 一 稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ
 - 一 紙(配達又ハ返戻ノ爲)其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

- 一 葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ
 - 一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ
- 第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ遞信省ノ認可ヲ受ケ遞信省認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ
- 其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ
- 第七條 第三種第四種第五種郵便物ハ封緘セサルモノトス
- 第八條 第三種第四種第五種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルキハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ
- 第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス
- 第十三條 第三種第四種第五種郵便物(營業品ノ見本及雛形ヲ除ク)ハ一個ノ重量二百目ニ超過スヘカラス
- 第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量百匁ニ超過スヘカラス
- 第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス
- 第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス
- 一 毒藥劇藥爆發燃燒シ易キ物品
 - 一 流動物流動腐敗シ易キ物變化スヘキ物動物植物鋒刃器硝子器陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス
 - 一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ二匁未滿

二錢

第二種郵便物 往復葉書一葉

一錢

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未滿

五厘

第四種郵便物 重量三十匁毎ニ三十匁未滿

一錢

第五種郵便物 重量三十匁毎ニ三十匁未滿

二錢

第十八條 郵便税ハ郵便切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但内信局長ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條 納税ニ用タル郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收ス

ヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便税納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手数料并別配

達料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル價ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ

但重量拾六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ遞信管理局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ一等郵便電信局長ノ免許ヲ受ケ

郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ

賣買スヘカラス

第三十四條 郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面税額

ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條 郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモノ

ハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシ

ムルトキハ一等郵便電信局一等郵便局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ
第卅七條 遞信管理者及ヒ一等郵便電信局一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封
皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第卅八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス
第卅九條 免稅郵便物ハ遞信省遞信管理局郵便電信局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各
廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ
第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ
第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官
吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ
第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ
第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相
當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便電信局郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス
第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハララス六錢トス
第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ
第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス
第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取
者ノ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務
者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ
第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタ

ル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ
第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス
第五十二條 郵便局ノ廢置ハ「驛遞總官」新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書
寄附所ノ類以
下ニ依リアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ
第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配
達料解船料貨幣遞送配達貨ニ追納アルモノハ此限ニアラス
第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス
第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リ
タルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス
第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人
ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ
留メ置タモ日數三十日ニ過クヘカラス
第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘ
シ其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ
第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人
ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ其内ノ一名ニ還付スヘシ
第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ
第六十一條 差出前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ
第六十二條 第四種第五種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス
 第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受ク可カラス
 第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス
 第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ實ニ任セス
 第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セザレハ之ヲ送達シ又送達セシム可カラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
 一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
 一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
 一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀
 第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス
 一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セザル額
 一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額
 第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツ可シ
 第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更ス可カラス
 第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護ス可シ
 第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚ス可カラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書往復郵便ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付ス可シ
 第七章 別配達郵便
 第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス
 第七十五條 別配達別ラ二類ト爲ス
 一市内郵便局別配達
 一市外郵便局別配達
 第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大坂ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス
 第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス八町未満亦同シ
 第七十八條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ル可シ
 第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス
 第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收ス可シ
 第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ
 第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ
 第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

- 其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徵收スヘシ
 - 第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス
 - 第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス
 - 第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナス可シ
 - 第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載ス可シ
 - 第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載ス可シ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載ス可シ
 - 第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達ス可シ
 - 第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ
 - 第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハス
- 第八章 郵便私書函
- 第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス
 - 第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ
 - 第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ
 - 第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ
 - 第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レシテ其住所ニ配達スヘシ
 - 第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス
 - 第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

- 第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス
 - 第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ
 - 第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ
 - 第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ル可シ
 - 第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ
 - 第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ル可シ
- 第十章 貨幣封入郵便
- 第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス
 - 第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ム可シ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ム可シ
 - 第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ
 - 第一百八條 封入ノ金額ハ三拾圓ニ超過ス可カラズ
 - 第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記ス可シ
 - 第一百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ
 - 第一百十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ル可シ
 - 第一百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ
 - 第一百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其

郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上捺捺スヘシ

第百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アル郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并ニ還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セズ

第百廿一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百廿二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第百廿三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第百廿四條 「驛遞總官」ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百廿五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百廿六條 沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキ却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第百廿七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百廿八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第百廿九條 郵便爲替ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ハ遞信大臣新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百卅一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三拾圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百卅二條 爲替料ハ遞信大臣之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ニ揭示スヘシ

第百卅三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便電信局郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三拾圓ニ超過スヘカラス

第百卅四條 爲替差出人ハ郵便電信局郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替

金及為替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ為替證書ヲ受領スヘシ

第百卅五條 為替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第百卅六條 為替差出人ハ其振出局ニ為替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但為替料ハ返付セズ

第百卅七條 為替受取人其為替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ為替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又為替差出人其振出局ニ為替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ為替貯金局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ為替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第百卅八條 為替金ノ拂渡及返戻ハ其為替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便電信局郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第百卅九條 為替受取人ハ其為替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ為替差出人為替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第百四十條 為替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其為替金ヲ受取ルヲ得ス

第百四十一條 代人ヲ以テ為替金ヲ受取ル者ハ其為替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル為替金ヲ受取ルトキハ其為替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第百卅九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ為替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第百四十二條ニ依ルヲ得

第百四十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル為替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第百四十二條第百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第百四十五條 為替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第百四十六條 効用ヲ失ヒタル為替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ為替貯金局ニ納付シ其書換ヲ請

求スヘシ

第百四十七條 為替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ為替貯金局長新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ為替證書ノ書換ヲ請求スルキハ其為替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其為替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其為替金ヲ没入スヘシ

第百四十八條 為替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ為替貯金局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條 為替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條 為替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ為替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ為替料ヲ納ムルニ及ハス

為替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ為替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條 再度ノ為替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル為替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ為替貯金局ニ納付スヘシ

第百五十二條 為替資金ノ都合ニ因リ為替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第百五十三條 為替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ為替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條 為替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條 郵便為替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ為替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ遞信省ハ其

責ニ任セス

第十三章 郵便貯金(第百五十七條ヨリ第百六十二條)

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書及往復葉書
- 三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖
- 四 詞訟上及商用上ノ書類
- 五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第二項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ(キログラム)凡五百三十二凡四百零六毛ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十(センチメートル)凡六寸凡六寸幅十(センチメートル)凡三寸凡三寸厚五(センチメートル)凡六分凡六分又其重量ハ二百五十(グラム)凡六分凡六分ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品 一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 流動物流動腐敗シ易キ物孵化スヘキ動物植物物鋒刃器硝子器陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品 一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背反スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外増手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手數料及増手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百廿一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總監公告スヘシ

第二百廿二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國差立ル書留ニ郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十(フランク)凡金貨二十錢凡金貨二十錢若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛

失シタルトキ亦同シ

第二百廿三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百廿四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百廿五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百廿六條 第廿一條第一項第廿五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百廿七條 第十六條第卅三條第卅四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百廿八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百廿九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五章 罰 則

第二百廿七條 第十六條第卅三條第卅四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百廿八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百廿九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百卅一條 第六十八條第二百廿三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百卅二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百卅三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百卅四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百卅五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百卅六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百卅七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百卅八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

シ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス
 第二百卅九條 遞信省ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ遞信省認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ
 第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及別配達料解船料貨幣運送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料解船料貨幣運送配達賃私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ
 第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 其未タ消印ヲナサヘル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス
 第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上一圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス
 第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第二百四十九條 第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
 第二百五十條 本條罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス
 ○遞信省令第十四號 廿四年九月廿八日
 第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業品見本若クハ營業雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ品一方營業者ナルトキハ其一方ニノ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト見做シ取扱ヒラ爲スヘシ
 ○遞信省令第十四號 廿五年十月一日
 貨幣封入郵便物及ヒ書留郵便物其受取人ヘ不着等ノ場合之カ取調ヲ請求セントスルモノハ可成速ニ最寄郵便電信局又ハ郵便局ニ請求ス可シ若シ其郵便物ヲ差出シタル日ヨリ滿一箇年ヲ經過シタルトキハ其請求ヲ受理セス
 ○勅令第六十七號 二十七年六月十四日
 戰時若クハ事變ニ際シ海外ニ派遣スル軍隊、軍艦、軍需其他ノ軍人軍屬ヨリ發スル郵便物ハ萬國郵便條約ニ依リ取扱ヲ爲スモノヲ除ク外軍事郵便物トシ其ノ郵便稅ヲ免除ス
 前項ノ軍隊、軍艦、軍需其他ノ軍人軍屬ニ宛テ發スル郵便物ハ郵便稅完納ノモノニ限ル未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二款 第三種郵便物認可規則

○逓信省令第四號 廿五年二月五日
第三種郵便物認可規則左ノ通り相定ム

第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添ヘ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
- 二 記載事項ノ性質種類
- 三 發行ノ定日
- 四 發行所
- 五 發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名

本條ノ規定ニ遵由セサル願書ハ之ヲ受理セス

第二條 前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ

- 一 毎月一回以上逐號定期發行スルコト
- 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト
- 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
- 四 發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

本條ノ證明ヲ爲サハル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス

第三條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、逓信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ

第四條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人(代表人)ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ

- 一 題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ
- 但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所

ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ
二 發行人轉居又ハ變更ノトキ

但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ

三 廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ

第五條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニシテ前條届出ノ有無ニ拘ハラズ第二條ニ記載シタル條件ノ一ヲ闕クニ至リタルト認ムルトキハ其認可ヲ取消スヘシ認可ノ取消ハ其達書ヲ發行人ノ住所ニ送達シタル翌日ヨリ効力ヲ生スルモノトス

認可ノ取消ヲ受ケタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス

第六條 第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲サ、ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第七條 本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人(代表人)ハ本令第一條及第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其效ヲ失フ

○逓信省告示第七十九號 廿三年四月廿二日

第三種郵便物ヲ差出ス者ハ郵便局ニ於テ其檢査ヲ容易ナラシメンカ爲メ本紙ニ印刷シタル「逓信省認可」ノ文字ハ卷封又ハ包裝スルモ外部ニ表出スル權注意スヘシ

○逓信省令第二號 廿五年一月廿三日

第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外ハ次號ノ發行期ヲ待ツ能ハサル緊急ノ時事ヲ報道スルモノニ限リ第三種郵便物トシ其他ハ總テ第四種郵便物トス

第三款 郵便小爲替規定

○逓信省告示第十七號

廿年六月廿五日

郵便小為替規定

- 第一條 郵便小為替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ釐位ヲ限リトス
- 第二條 為替料ハ小為替證書一枚ニ付參錢トス
- 第三條 小為替ハ差出人ノ指定シタル為替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス
- 第四條 為替差出人ハ郵便局吏員ニ為替金及為替料ヲ差出シ小為替證書及受領證書ヲ受取ヘシ
- 第五條 為替差出人ハ小為替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ
其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得
- 第六條 小為替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ為替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ
- 第七條 為替受取人ハ為替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ
- 第八條 為替差出人ハ為替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ
- 第九條 代人ヲ以テ為替金ヲ受取ルモノハ其為替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ為替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 小為替證書ノ効用ハ其證書ノ日付ヨリ六十日ヲ限リトス
- 第十一條 郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ為替金ヲ拂渡サハルモノトス但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 左ニ掲クル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ為替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ為

- 替貯金局ニ再度小為替證書ヲ請求スヘシ但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得
- 一 小為替證書有効期限ヲ經過シタルトキ
- 二 小為替證書ヲ失ヒタルトキ
- 三 小為替證書毀損汚斑シ點檢上支障アルトキ
- 第十三條 再度小為替證書ヲ請求スルトキハ更ニ為替料ヲ納ムヘシ
- 第十四條 小為替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セズ

○郵便為替ニ付注意

廿四年三月

郵便為替ニ付テハ郵便局ニ於テ常ニ注意ヲ怠ラサルモ時ニ或ハ詐偽ニ罹ルノ患ナシトセス故ニ差出人及受取人ニ於テモ充分ノ豫防ニ注意アラントテ要ス而シテ豫防ノ方法ハ種々之アルヘキニ就中左ノ件々ハ最モ必要ノコトナリトス

一 郵便局ニ就テ郵便為替ヲ振出ストキハ差出人ヨリ差出シタル為替申込書ノ記載ニ從ヒ差出人及受取人ノ宿所氏名ヲ拂渡局ニ通知シ拂渡局ニ於テ之ヲ拂渡ストキハ其通知ニ基キ受取人ニ右ノ宿所氏名ヲ訊問スルノ方法ナルカ故ニ差出人ハ拂渡局ノ問ニ答フヘキ宿所氏名ヲ特ニ受取人ニ通知スルヲ要ス而シテ此通知ヲ為ス書面ハ為替證書トハ別便ニテ送付センコトヲ要ス

斯ク為スモ為替申込書ニ記載シタル宿所氏名ト為替證書ヲ封入シタル書面ノ封表ト同一ナルハ右ノ注意モ無効ニ屬スルコトアラシ故ニ為替差出人ト書狀ノ差出人トハ孰カ一方家族等ノ氏名ヲ用フルカ或ハ書狀ノ宛名人ト為替受取ト別人ニ為スカ若シ又差出人受取人トモ別ノ氏名ヲ用ヒ難キ場合ニハ為替申込書ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載スルノ外尙ホ便宜ノ符號ヲ書加フル等要スルニ封表ニ記載アル宿所氏名ニテハ為替金ヲ受取リ能ハサル様注意ヲ要ス

一 為替證書ヲ封入セル封表ニハ為替證書入等ノ文字ヲ書載スヘカラス且ツ其封皮ハ弛テ良紙ヲ用ヒ外部ヨリ為替證書ノ封入アルヲ察知シ得ヘカラサル様注意ヲ要ス

一小為替ニアリテハ為替差出人受取人ノ宿所氏名ヲ調査スルノ手續アラサルニ由リ小為替證書ヲ受取人ニ送付スルニ方リ證書ノ表面ニ設ケアル「受取人宿所氏名」ノ欄内ニ其記入ヲ為サスシテ差立ツルトキハ若シ其證書不良者ノ手ニ落チタル場合ニハ恣ニ虛構ノ宿所氏名ヲ記入スル便アリテ終ニ為替金ヲ詐取セラルハノ害ヲ受クルコトアルヘキニ依リ小為替證書ハ必ス受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ差立ツルコトヲ要ス

第四款 郵便聯合國郵便切手類保護法

○法律第三號 廿五年六月十七日

郵便聯合國郵便切手類保護法

第一條 郵便聯合國條約國政府ノ發行スル郵便切手封皮葉書又ハ帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二條 已ニ貼用シタル郵便聯合國條約國政府發行ノ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第四條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス
附則
第五條 此法律ハ明治廿五年七月一日ヨリ施行ス

第五款 小包郵便法

○法律第二號 廿五年六月十六日

小包郵便法

第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコ

トヲ得

第一條 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但シ第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得

第二條 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若ハ音信文記入ノ物品

第三條 小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト為スコトヲ得但シ其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責任ヲ負フ

第五條 小包郵便料、保險料、賠償金額並ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責任ヲ負フ

第一 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ

第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ

第四 本法カ郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ

第五 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責任ヲ負フ

第六 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ

第七 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ差出人ヨリ逡信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ為スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此ノ期限ヲ經過スルトキハ政府其ノ責任ヲ免ル

第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 政府賠償ヲ為シタルトキハ其ノ郵便物若ハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權若ハ第三

者ニ對スル請求權ヲ當然承繼ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便物ハ郵便料ヲ免除ス

第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メサル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條 第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

第六款 小包郵便法施行細則

○遞信省令第十三號

廿五年九月廿七日

小包郵便法施行細則左ノ通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

小包郵便法施行細則目次

- 第一章 總則
- 第二章 差出
- 第三章 料金
- 第四章 留置

第五章 送達

第六章 賠償

小包郵便法施行細則

第一章 總則

第一條 小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取所ニ限ルヘシ

第二條 小包郵便物ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達又ハ留置トナスコトヲ得但小包郵便ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ別配達ヲ請求スルコトヲ得

第三條 小包郵便物ヲ受取ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵便物ヲ送ラントスルトキハ最寄取扱局特別留置トナシテ之ヲ差立ルコトヲ得

第二章 差出

第四條 小包郵便物ハ表面ニ小包ト記載シ小包郵便取扱局所ニ差出シ其ノ受取證書ヲ受クヘシ郵便函ニ投入シタルモノハ小包ノ文字ヲ記シタルモノト雖モ之ヲ小包郵便物ト爲サス總テ通常郵便物トシテ取扱フヘシ

第五條 小包郵便物ハ送票(甲號)ニ式ノ如ク記入シ其ノ郵便料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添フヘシ其ノ送票ニハ定式外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス

第六條 小包郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ外包ヲ破却スルニアラサレハ内品ニ損傷ヲ被ラシムルコト無キ様充分ノ手當ヲ爲スヘシ

價額登記ノ小包郵便物ハ其ノ外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ能ハサル様堅固ニ包裝シ之ニ三箇所以上封印ヲ施スヘシ

第七條 貨幣、舊貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶玉細工物ノ類ハ蓋付ノ罐又ハ堅固ナ

ル蓋付ノ箱類ニ納メ内品ノ動搖セサル様請込ミ其ノ蓋ノ合セ目ニ錫蠟等ヲ注キ若ハ蓋ヲ釘著ト
 ナシ麻繩若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之ヲ封緘スヘシ
 郵便切手、葉書、封皮、帶紙其ノ他諸印紙類及有價證券、手形類モ亦前項同様ニ包裝封緘スヘシ
 郵便局ノ承認ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモノハ其ノ品質ニ應シ罐又ハ箱其ノ他
 適當ノ包裝ニ依リ充分ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ様手當ヲナシ其ノ品名ヲ表面ニ明記スヘシ
 第八條 小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人ヲシテ更ニ之ヲ改裝セシムヘシ
 第九條 小包郵便物ノ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ
 但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其ノ郵便物ニ記載シ難キモノハ厚紙若ハ木札等ヲ附著シテ之ニ記載
 スヘシ
 第十條 小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ宿所氏名、職業家號、符號、商標及年月日ニ限ルヘシ
 但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス
 第十一條 郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包入シタリト思料スルトキ又ハ表記品
 名ト包中物品ト相違セリト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出人又ハ受取人ヲ立會ハシメ之ヲ
 開封検査スルコトヲ得
 第十二條 小包郵便物差出人其ノ差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿所ニ關シ或ハ異動アルヘシト掛念ス
 ルトキハ豫メ之ヲ差出立局所ニ請求シ置クコトヲ得
 第三章 料金
 第十三條 小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ
 但差出人ニ還付ノ場合ハ此限ニアラス
 第十四條 小包郵便料ニ關スル里程ハ遞信省ニ於テ定メタル里程表ニ依ル
 差立配達トモ郵便局ヲ同シクスルモノハ最近里程ノ率ニ依ル
 第十五條 小包郵便物ノ重量ハ總テ郵便局所ノ秤量ニ依ルヘシ

第十六條 小包郵便物ヲ轉送又ハ還付スルトキハ其ノ轉送又ハ還付ノ里程ニ從ヒ更ニ郵便料ヲ徵
 收ス
 但其ノ轉送若ハ還付ニシテ同一郵便區内ニ止リ其ノ料金ニ異動ヲ生セサルモノハ此限ニアラ
 ス
 第十七條 轉送又ハ還付ノ郵便料ハ之ヲ差出人ヨリ徵收ス
 第二十七條ニ依リ受取人ヨリ配達又ハ轉送ヲ請求シタルモノハ之ヲ受取人ヨリ徵收ス
 第十八條 小包郵便物ノ受取人別配達料若ハ船料ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包郵便物ハ差出人ニ
 還付シ本條ノ料金ヲ併納スヘシ
 但留置小包郵便物ノ受取人自ラ其ノ轉送又ハ配達ヲ請求シタル場合ニ於テハ本條料金ノ納付
 ヲ拒ムコトヲ得ス若シ其ノ郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ更ニ原留置局マテ回送スル郵便料及本
 條ノ料金ヲ併納スヘシ
 第十九條 未納料金又ハ不足料金ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ送票ニ加貼シ未納又
 ハ不足ノ印ヲ捺スヘシ
 第二十條 價額登記小包郵便物ノ轉送還付ニ對シテハ別ニ其ノ保險料ヲ徵收セス
 第四章 留置
 第二十一條 小包郵便物ヲ留置トナサントスルトキハ差出人ノ差立局ニ請求シ其ノ留置證ヲ申
 受クヘシ
 小包留置證ハ差出人ヨリ之ヲ受取人ニ送付スヘシ
 第二十二條 留置小包郵便物到着シタルトキハ其ノ留置局ヨリ直ニ其ノ通知書ヲ受取人ニ發スヘ
 シ
 但受取人ノ宿所ヲ記載セサルモノハ此限リニアラス
 第二十三條 小包郵便物ノ留置期限ハ其ノ到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス

其ノ期限ヲ經過シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

但交通不便ニシテ其ノ受取人本文規定ノ期限内ニ出局スルコト能ハサル地ハ出局シ得ヘキ最
短日限マテ特ニ之ヲ留置スルコトアルヘシ

第二十四條 留置小包郵便物ヲ受取ラントスルトキハ小包留置證ニ記名調印シテ之ヲ差出シ受取
人タルコトヲ證スヘシ

但シ留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニ於テハ第廿五條第三項ニヨリ證明書ヲ以テ受取入タルヲ
ヲ證シ別ニ受領證ヲ差出スヘシ

第二十五條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ留置證ヲ失ヒタルトキ又ハ通知書到達ノ後尙留置證ノ
送達ヲ受ケサルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ報スヘシ

第一項ニヨリ差出人ニ報スヘキ場合ニ於テ其差出人旅行其ノ他ノ事故ニヨリ小包郵便物ニ表記
シタル宿所ヲ異ニシ所在分明ナラサルカ爲メ差出人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムル能ハサル時
ハ受取人ニ於テ確實ナル保證人ヲ立テ其ノ事由ヲ證明スヘシ此ノ手續ニヨリ留置小包郵便物ヲ
受領シタル時ハ曾テ差出人ノ受領シタル留置證ハ無効トス

差出人前項ノ報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ留置證ヲ失ヒタルトキハ最初小包郵便物ヲ差出シタ
ル局所ニ就キ其ノ受取證書ヲ證トシテ留置證ノ謄本ヲ申受ケ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ留置期限ノ相當猶豫ヲ留置局ニ請フコトヲ得

第二十六條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ其ノ留置證
ノ裏面ニ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ其ノ代人該小包ヲ受取ル手續ハ

第二十四條ニ依ル
但シ留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニアツテハ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記載シタル正當
ノ委任狀ヲ差出スヘシ

第二十七條 留置小包郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ小包郵便物ノ配達還付若ハ轉送ヲ其ノ留

置局ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ轉送ノ上更ニ留置ヲ請求スルモノ、外其ノ留置證ハ總テ
無効トス

第二十八條 此章ノ規程ハ總テ特別留置ノ小包郵便物ニ適用ス

第五章 送達

第二十九條 郵便局ニ於テ小包郵便物取扱中包装損傷シタルトキハ相當ノ手當ヲ施シ其ノ旨ヲ記
シ取扱者ノ検印ヲ捺スヘシ

第三十條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ其ノ配達證書ニ調印シ之ヲ受取ルヘシ
同居ノ家族雇人ノ受取トキハ其ノ旨ヲ記載シ本人ニ代リテ記名調印スヘシ

肩書ノ家ニ於テ之ヲ受取ルトキハ其ノ家主記名調印スヘシ
官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ之ヲ受取ルトキハ相當ノ資格アルモノ其
ノ配達證書ニ記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第三十一條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ未タ配達證書ニ調印セサル前ニ於テ其ノ
小包郵便物ヲ開封スルコトヲ得ス

若シ之ヲ開封シタルトキハ異議ナク其ノ郵便物ヲ受取リタルモノトスヘシ

第三十二條 小包郵便物受取人不在等ノ事故ニ依リ初度配達ノ際之カ配達ヲ遂クル能ハサルトキ
ハ一週間内便宜配達ヲ試ミ尙之ヲ配達シ能ハサルトキハ差出人ニ還付スヘシ

但別配達ノモノト雖モ爾後ノ試配達ハ總テ通常配達便ニ依ル

第三十三條 小包郵便物ノ受取人移轉シタルトキハ郵便局ハ速ニ差出人ニ向ケ送票(乙號)ヲ發シ
之ヲ轉送スヘキカ又ハ之ヲ還付スヘキカヲ問合スヘシ差出人此問合ヲ受ケタルトキハ送票(乙
號)中希望ノ欄ヲ存シ不用ノ欄ハ總テ之ヲ塗抹シ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回
送スヘシ

但第十二條ニ依リ豫メ還付ヲ請求シタルモノハ直ニ之ヲ還付ス
其ノ轉送スヘキ地同一郵便區内ニシテ轉送料ヲ増徴スルコトヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ配達ス
ヘシ

第三十四條 前條ニ依リ差出人ニ問合セタル後普通郵便往復日限ヲ經過スルコト五日ニ至ルモ尙
何等ノ申出ヲナサハルトキハ轉送ヲ希望セサルモノト看做シテ還付ノ取扱ヲナスヘシ
第三十五條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ受取人
受取方ヲ拒ムコトヲ得ス

但破損ノ痕迹トハ之ニ依リテ其ノ内品ヲ損傷シタルヘシト認ムル程ノ著大ナルモノニ限ル又
遞送中ニ於ケル普通ノ磨擦若ハ濡濕乾燥等ノ故ニ依リテ増減シタル重量ノ異動ハ本條ノ限ニ
アラス

前項ニ依リ小包郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ其ノ事由書ヲ認メ之ヲ配達人ニ交付スヘシ
第三十六條 受取人前條ニ依リ小包郵便物ノ受取方ヲ拒ミタルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ調査シ相
當理由アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

若シ郵便局ニ於テ相當理由ナキモノト認ムルトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調査スヘシ
受取人召喚ニ應セサルトキ又ハ立會調査ノ上之ヲ拒ムヘキ理由ナキコトヲ示シタルトキハ再ヒ
之ヲ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 小包郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ其ノ差出人小包郵便取扱局ノ郵便區外
ニ在ルトキハ最寄小包郵便取扱局ニ留置キ其ノ旨ヲ通知スヘシ

差出人其ノ通知ヲ受ケタルトキハ最初受領シタル受取證書ヲ差出シ其ノ差出人タルコトヲ證シ
テ之ヲ受取ルヘシ
代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルハ代人某ニ受取方委任スル旨ヲ記載シタル書面ヲ差出ス
ヘシ

第二十八條 通知書ヲ發シテ十五日以内ニ尙其受取方ヲ請求セサルトキハ配達還付シ能ハサル郵
便物トシテ處分スヘシ

第三十九條 第三十五條及第三十六條ノ規定ハ差出人カ其ノ小包郵便物ノ還付ヲ受ル場合ニモ亦
之ヲ適用ス

但受取人カ第三十五條第二項ニ依リ事由書ヲ附シタル小包郵便物ニ對シテモ差出人ハ更ニ還
付ヲ受ケサル事由書ヲ配達人ニ交付スルヲ要ス

第四十條 差出人前條ノ事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルトキハ速ニ郵便局ニ出頭シ若ハ相當
代人ヲ差出シ尙其事由ヲ陳述スヘシ

第四十一條 差出人前條ノ手續ヲナストキハ郵便局ハ其出頭人ヲ立會ハシメ郵便物ヲ開封シテ損
害ノ有無ヲ検査シ果シテ損害アルコトヲ認ムルハ損害證明書二通ヲ作り其一通ヲ出頭人ニ交
付スヘシ

第四十二條 差出人還付ヲ受ケサル事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルノミニテ第四十條ノ手續
ヲ爲ササルトキハ郵便局ヨリ其ノ差出人ヲ召喚スヘシ

若シ其ノ召喚ニ應セサルトキハ異議ヲ取消シタルモノト看做シ其ノ郵便物ハ之ヲ還付スヘシ此
場合ニ於テ差出人ハ之ヲ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第四十一條ニ依リ損害證明書ヲ作りタル小包郵便物ハ其ノ賠償處分ノ結了ニ至ル迄
之ヲ郵便局ニ留置クヘシ

其ノ賠償ヲ請求セサルモノハ速ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ
第四十四條 配達還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便沒書取扱ノ例ニ準ス
前項ノ取扱ニ附シタル小包郵便物ヲ更ニ送達スルトキハ第十六條ニ依リ料金を徴収ス

第六章 賠償

第四十五條 小包郵便物損害ノ賠償ハ其ノ差立局所ヲ管スル一等郵便局ニ之ヲ請求スヘシ

損害賠償ヲ請求スルニハ其ノ品名箇數實價請求金額並ニ之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ作り差立ノ際受取リタル受取證書ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ其ノ損害證明書ヲ受取リタル者ハ尙之ヲ添フヘシ郵便料ノ返付ヲモ請求スルトキハ前項請求書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 小包郵便物受取證書ハ損害證明書ヲ失ヒ之ヲ前條請求書ニ添ユルコト能ハサルモノハ當該郵便局ニ就テ其ノ謄本ヲ申受ルコトヲ得

第四十七條 價額登記小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 登記金額

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 登記ノ價額ト差

但登記ノ價額實價ニ超過スルモノハ總テ之カ賠償ヲナサス

第四十八條 通常小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 重量百匁ニ付 金十錢ノ割合

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 損害部分ニ對シ重量百匁ニ付金十錢ノ割合

第四十九條 損害ノ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郵便料返付ノ請求アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ返付ス

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 料金ノ全部

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 亡失毀損セシ部分ノ重量ニ對スル料金 但料金算出方ハ既納料金ノ比例ニ依ル

第五十條 損害賠償ノ請求ヲ受ケタル一等郵便局ニ於テハ其ノ請求ノ當否ヲ審査シ賠償ヲ要セサルモノト認ムルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知シ其ノ賠償ヲ要スルモノト認ムルトキハ第四十七條及第四十八條ニ依リ賠償金額ヲ定メ之ヲ請求人ニ通知スヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スル場合ニ於テハ其ノ返付ニ關スル決定ヲ其ノ通知書中ニ記載スヘシ

第五十一條 賠償請求人前條ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以

青色		小包		常包	
里	程	量	目	承	認
里迄	引受	番號	出差人宿所氏名	取受	宿人
第	號	國	市郡	國	市郡
		番地	村町	番地	村町

小包送票用紙雛形

内ニ該郵便局ニ不服ノ申立ヲ爲スヘシ

前項ノ期限内ニ不服ノ申立ヲ爲サハルモノハ不服ナキモノト看做シ假ニ之カ處分ヲ爲スヘシ

第五十二條 小包郵便物毀損ニ對スル損害賠償ノ請求ハ其ノ處分結了ニ至ル迄何時タリトモ差出人ノ隨意ニ之ヲ取消シ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 亡失小包郵便物ノ賠償ヲ爲シタル後該郵便物ヲ發見シタルトキハ郵便局ハ之ヲ差出人ニ通知スヘシ

第五十四條 亡失小包郵便物發見ノ通知ヲ受ケタルモノ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ヲ作り該通知書ヲ添ヘテ之ヲ差出シ同時ニ曩ニ受取リタル賠償金及郵便料ヲ返納スヘシ

青色及紫色 小包 常用

小包		(甲)	
送票番號	第	要摘	欄付
右受取人 國 市郡 村町 キヤ左ノ兩項ノ内希望ノ欄ヲ存シ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シ不用ノ欄ハ之ヲ塗抹シ來ル 日迄ニ其地差立當局ニ差出スヘシ	國 市郡 村町 番地	差立局取 扱者印 配達局名 國 局	印附日局達配
	小包番號	號	

紫色 小包 常用

送票		(乙)	
轉送料金	還付料金	要摘	欄付貼手切便郵
國 市郡 村町 番地 局 殿			

○勅令第五十七號 廿五年六月廿七日

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加徴ス

小包郵便物一箇重量六百匁マテ 貳錢

(六一五)

同 同 壹貫匁マテ 四錢
 同 壹貫五百匁マテ 六錢
 第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス
 容積 長 曲尺二尺
 幅 曲尺二尺
 厚 曲尺二尺
 重量 壹貫五百匁

第四條 小包郵便物ノ登記價額ハ金百五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス
 第五條 價額登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額壹圓マテ金七錢トシ壹圓以上ハ壹圓マテ毎ニ金壹錢ヲ加フ
 第六條 通常小包郵便物ノ損害ニ對シテハ重量百匁ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス
 第七條 價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額マテ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ登記金額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

第八條 小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ遞信大臣隨時之ヲ告示ス
 (別表)

小包郵便料	
二十里マテ六	錢八
六十里マテ八	錢拾
八十里マテ九	錢拾
百五里マテ拾	錢拾
二百里マテ拾	錢拾
二百五十里マテ拾	錢拾
三百里マテ拾	錢拾
三百里以外	錢拾

四十里マテ七	錢拾	錢拾	參錢拾	六錢拾	九錢	貳拾參錢	貳拾七錢
六十里マテ八	錢拾	貳錢拾	六錢拾	貳錢拾	四錢	貳拾九錢	參拾四錢
八十里マテ九	錢拾	四錢拾	九錢	貳拾四錢	貳拾九錢	參拾六錢	四拾三錢
百五里マテ拾	錢拾	六錢拾	貳錢拾	貳錢拾	八錢	參拾四錢	四拾貳錢
二百里マテ拾	四錢	貳錢拾	貳錢拾	錢	參拾八錢	四拾四錢	五拾五錢
二百五十里マテ拾	六錢	貳錢拾	五錢	參拾四錢	四拾參錢	五拾貳錢	六拾四錢
三百里マテ拾	八錢	貳錢拾	八錢	參拾八錢	四拾八錢	五拾八錢	七拾壹錢
三百里以外	拾壹錢	參拾貳錢	四拾參錢	五拾四錢	六拾五錢	七拾九錢	九拾參錢

第七款 郵便貯金條例

勅令第六十三號 廿三年八月十二日

郵便貯金條例(略ス)

第八款 郵便貯金條例施行細則

遞信省令第廿三號 廿三年十一月廿六日

(七一五)

其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 電報書報

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞數字ヲ用フヘシ

第七條 郵便電信局長電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ其合符原本ヲ要スルハ之ヲ差出スヘシ

第三章 電報料

第八條 凡電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内及壹岐對馬ニ發着スルモノハ此限ニアラス

第九條 電報料及手數料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 電報料及手數料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ但返信料

電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條 郵便電信局電信局并ニ電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セサルモノトス

第十二條 電報料及手數料ニ用ヒタル電信切手ハ郵便電信局電信局ニ於テ消印スヘシ

第十三條 電報料及手數料ハ過納アルモ已ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス 未タ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ已ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金を還付セス

第十五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遲延シ若クハ到達セサルモノハ其料金を還付ス照校電報

ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルコト判然タルモノ亦同シ

第十六條 料金を還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以内ニ遞信省ニ申出ヘシ此期限ヲ過クルトキ

ハ一切之ヲ受理セス

第十七條 電報料及手數料ニ不足アルトキハ郵便電信局電信局ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足

ノ料金を二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ム可キ料金を七日以内ニ徵收シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收スヘシ

第四章 電信切手

第十九條 電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十條 電信切手ハ電報料及手數料納濟ノ證トナスモノトス

第二十一條 電信切手ヲ賣ル者ハ遞信管理局長ノ免許ヲ受ケ電信切手賣下所ノ標札ヲ掲クヘシ

第二十二條 電信切手ハ郵便電信局電信局並電信切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第二十三條 電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第二十四條 返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便

切手ヲ賴信紙ニ貼付シタルモノハ各其効用ヲ失フ

第二十五條 電信切手ノ汚損毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未タ使用セサルモノニ

限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ證明シタルトキハ遞信管理局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻

スヘシ

第二十六條 遞信管理局又ハ一等ノ郵便電信局ハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所

持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第五章 電報發送

第二十七條 電報ノ傳送ハ郵便電信局電信局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條 郵便電信局電信局ノ廢置並開局時間ハ遞信大臣之ヲ告示スヘシ

第二十九條 電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ル可シ但至急官報ハ此限ニアラス

- 第三十條 發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ム可シ
- 第三十一條 官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス
- 第三十二條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得
- 第三十三條 郵便電信局電信局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ
- 第三十四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達ス可シ但受取ル可キ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス
- 第三十五條 電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スベシ
- 第三十六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ着信局ニ返付スヘシ 其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ
- 第三十七條 郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達船配達ハ此限ニアラス
- 第三十八條 郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ
- 第三十九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ 別使又ハ解船ヲ以テ配達スル電報ハ手数料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ
- 第四十條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ着信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四十一條 未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四十二條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ遞信省ハ一切其責ニ任セス

第六章 尋問改正

第四十三條 受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

郵便電信局電信局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收メシ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四十四條 發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

第七章 閱覽正寫

第四十五條 發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ證印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四十六條 凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ遞信省ニ願出ヘシ

第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スルモノニ限り許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四十八條 電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ遞信省ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ

第四十九條 私設ノ電線ハ最寄郵便電信局電信局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スル

モノハ此限ニアラス

第五十條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章 海外電報

第五十一條 海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章 罰則

第五十二條 第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第四十六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒収ス

第五十六條 第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ

電線私設ヲ禁止ス

第五十七條 第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金

ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條 電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨

害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ機械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ

妨害シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス 其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第六十條 電信ノ柱木條線ニ紙鳶ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜

ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十

五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘

鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處

ス 政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條 偽計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタ

ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 己レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ

非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁

錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條 己ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條 遞信大臣ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

之ヲ入レタルモノハ一等ヲ加フ

第六十八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披説明スルハ此限ニアラス 官報及

局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條 電信事務ヲ奉スルモノ頼信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タル者ハ一月以上一年以下ノ

重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 其未タ消印ヲナサル切手ヲ剝取タル者ハ

刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條 電信事務ヲ奉スルモノ故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第七十一條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滞シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢

(六二五)

以下ノ科料ニ處ス

第七十二條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條 第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十四條 第六十四條第六十五條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○逓信省告示第七十八號 十九年八月七日

電信條例第十一條第十二條第十七條第二十二條第二十七條第二十八條第三十三條第三十七條及第四十二條中電信中央局及分局トアルハ電信分局同第二十一條電信局長ハ逓信管理局長第二十五條及第二十六條中電信中央局及工部卿ハ一等電信分局及逓信大臣同第二十八條及第四十六條中工部卿ハ逓信大臣電信取扱規則第二條第五十六條第五十八條及第七十七條中「中央局并分局」「電信中央局又ハ分局」「電信中央局及分局」ハ電信分局ト心得ヘシ

第十一款 電信取扱規則

○太政官布達第七號 十八年五月七日

電信取扱規則別冊ノ通リ相定ム

(別冊)

電信取扱規則(廿三年省令第二號ニテ第十八條、第四十六條、第五十三條、第五十五條、第五十六條) 第一章 電報

第一條 官報トハ各官廳ノ公信並締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及領事ノ通信ヲ云フ但商人ニシテ領事ヲ兼ヌル者ヨリ發出スル電報ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スルモノニ非サレハ官報ト爲

サス

第二條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局及中央局并ニ分局相互ニ送受スル通信ヲ云フ

第三條 私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ

第四條 發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得

第五條 至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章 電報書法

第六條 電報ニ用ユル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第七條 莫爾斯字號左ノ如シ

(片假名及數字羅瑪文字及亞刺比亞數字、和文句讀點及記號、歐文句讀點及記號ハ略ス)

畧符號

至急私報

追尾電報

改追尾電報

同文電報

照校電報

受信電報

返信料前納電報

局待

親展

郵便配達

書留郵便配達

ウナ

チラ

ナチ

ヨム

ムニ

ニナ

ナツ

ヤム

ニカ

ツツ

カナ

(七二五)

別使配達
解船配達

マツ
ハホ

第八條 普通辭トハ和文ハ片假名歐文ハ羅旬語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ
易キモノヲ云フ但シ電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通
辭ト看做スヘシ

第九條 秘辭トハ普通辭ニ非ス文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云
フ

第十條 隱語トハ每語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全体ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ

第十一條 削除

第十二條 削除

第十三條 電報ニハ文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得但歐文ノ秘辭ニハ一聯集中文字ト數字トヲ混
用スヘカラス

第十四條 小括弧ハ第十五條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ用フルヲ得ス

第十五條 和文ニハ商標又ハ記號等片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限り歐文字又ハ亞刺比亞數字
ヲ挿入スルコトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十六條 受信人ノ住所氏名ハ着信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他
ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ國名及郡區名ヲ記スヘシ但シ詳明ヲ要スルモ贅語ヲ用フヘ
カラス

第十七條 宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ

第十八條 受信人ノ住所氏名ハ豫メ電信局ト約定シテ略號ヲ常用スルコトヲ得

但歐文電報ニ略號ヲ常用スルハ略號常用料ヲ納ムヘシ其金額及付納手續ハ特ニ之ヲ定ム

第十九條 第七條ニ記載シタル略符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ

記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ略符號ニ改書スルモノトス

第二十條 發信人ノ賴信紙中ニ記シタル略符號判然タラサルモノハ都テ通常電報ト爲シテ取扱フ
ヘシ

第三章 字數計算

第二十一條 和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條 和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字及和文中ニ用ヒタル括弧小括弧ハ之ヲ片假名二字
ニ計算スヘシ

例
ハ 二字
ビ 二字

第二十三條 和文中ニ用ヒタル長音數字歸除線句讀點新章及第十五條ニ記載シタル歐字又ハ亞刺
比亞數字ハ其一字又ハ一個ヲ片假名一字ニ計算スヘシ

例(歐字ノ例ハ畧ス)

ハ八^三/_六

セキタンサン、ヒヤクエン

數字歸除線合セテ五字文
字句讀點合セテ十二字
同

第二十四條 削除

(第二十五條乃至第三十五條ハ歐文ニ關スルニ付之ヲ略ス)

第四章 電報料及手數料

第二十七條 國內一市內及壹岐ヲ通スル電報料左ノ如シ

一和文 片假名十字以内 一音信金拾五錢
十字以内ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増ス

一 歐文 一語毎ニ

金拾錢

五語以内ハ總テ金五拾錢トス

第三十八條 一市内ニ發着スル電報料左ノ如シ

一 和文 片假名十字以内

一音信金五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

一 歐文 一語毎ニ

金三錢

五語以内ハ總テ金拾五錢トス

第三十九條 至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條 至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條 追尾電報料ハ追尾一回毎ニ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十二條 同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ金五錢歐文ハ金拾五錢トス

第四十三條 照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十四條 受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ増ス

第四十五條 電報料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ其端數ハ切捨ルモノトス

第四十六條 削除

第四十七條 條例第三十條ノ電報受取證書ノ手數料金三錢トス

第四十八條 條例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁毎ニ金三錢トス

第四十九條 條例第三十九條ノ船配達料ハ金二十錢トス

第五十條 條例第四十五條ノ原信正寫ノ手數料ハ和文百字以内毎ニ金二錢歐文百語以内毎ニ金十

錢トス

第五十一條 料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ着信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤謬

遲延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添ヘ發信人ヨリ電信局長ニ申立ヘシ但シ時

宜ニ依リ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條 電報遲延ノ申出ハ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ届先ニ達シタル者ニ限ルヘ

第五十三條 電報料手數料ヲ還付スルトキハ都テ郵便切手ヲ以テスヘシ

第五十四條 同文電報ノ内若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料

金ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條 削除

第五十六條 追徵電報料及手數料ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シタル追徵證書ヲ發スルニヨリ

發信人又ハ受信人ニ於テ其金額ヲ追納スヘシ

第五章 電報發送

第五十七條 發信人ハ電報一通ニ三名マテ連署スルコトヲ得

第五十八條 受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ電信中央局又ハ分局ヘ預ケ置カントスルトキハ其局宛ト

ナスモ妨ケナシ

第五十九條 電報ノ受取證書ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第六十條 郵便ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信分局ヘ宛テ

之ヲ差出スヘシ

第六十一條 郵便ニテ發出シタル電報ニテ閉局後ニ受取リタルモノハ翌日開局ノ時傳送ノ手續ヲ

ナスモノトス

第六十二條 發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ畧符號ヲ以テ指定スヘ

シ

第六十三條 發信人電報ノ受信家ヘ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ畧符號ヲ

以テ指定スヘシ

- 第六十四條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第六十五條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサルトキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ着信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剩アラハ發信人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徴收スヘシ
- 第六十六條 郵便ヲ以テ遞送スベキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ但シ別配達郵便ハ之ヲ取扱ハス
- 第六十七條 艦船宛ノ電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第六十八條 艦船宛ノ電報ニシテ別使ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達並別使配達ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第六十九條 艦船宛ノ電報ニシテ解船配達ノ指定ナク實際解船ヲ要スルトキハ其解船料ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ
- 第七十條 島嶼配達ノ電報ハ着信局ヨリ一里内外ニ拘ハラズ別使又ハ郵便ヲ用ユルヘキニ依リ何レカ其畧符號ヲ以テ指定スヘシ但シ其記入ナキモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ
- 第七十一條 島嶼ノ別使配達料ハ水陸トモ實費ヲ徴收スヘキニ依リ發信人ヨリ豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ
- 第七十二條 電報ハ着信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ
- 第七十三條 電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ
- 第七十四條 但受信人名ヲ連署シタル電報ハ一通ノ送達紙ニ記載シ其内ノ一名ニ配達スヘシ
- 第七十五條 送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所ヘ移轉シ其居所不分明ナルモノ一里ヲ超ヘサルト

- キハ別ニ手数料ヲ要セスシテ配達スヘシ一里ヲ超ユルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘシ
- 第七十六條 條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ルヘキ人名ヲ指定スルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ
- 第七十七條 電信中央局又ハ分局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其發信人及受信人ノ住所氏名ヲ詳記シテ七日ヨリ少ナカラサル間其局前ニ揭示スヘシ
- 第六章 至急電報
- 第七十八條 官報私報ヲ問ハス通常電報ニ先テ傳送ヲ要スルモノハ至急電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第七十九條 至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至急電報ノ畧符號ノ次ニ「ヘン」シシキウ」ト記スヘシ
- 第七章 追尾電報
- 第八十條 發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスルトキハ追尾電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第八十一條 追尾電報ノ第一着局以外ノ料金ハ受信人ヨリ徴收スヘシ但シ一市内ニテ追送スルモノハ料金ヲ要セス
- 第八十二條 追尾電報ノ頼信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ
- 第八十三條 追尾電報ノ畧符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記セサモノニシテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直ニ之ヲ追送スヘシ若シ追送スベキ居所不分明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信人ヲ尋得サルトキハ電報ヲ留置クヘシ
- 第八十四條 追尾電報ノ畧符號アリテ且追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記シタルモノハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得サルトキハ其終尾ノ局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但シ追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省略セス逐局之ヲ傳送ス然レモ逐書シタル居所ハ其當サニ

- 送ルヘキモノ、ミヲ存シ巳ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ
- 第八十五條 追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲ストキハ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐送局傳スルコトヲ得
- 第八十六條 追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ略符號ノ次ニ返信料前納ノ略符號ヲ記シ第一着局マテノ返信料ヲ前納スヘシ
- 第八十七條 返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ改追尾電報ノ略符號ヲ記スヘシ其着信局ニ於テハ第一着局マテノ返信料ヲ受信人ニ交付ス
- 第八十八條 何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ電信分局ヘ移轉等ノ事由ヲ書面ニテ申出置キ其電報ノ到着次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ント請求スルコトヲ得此電報ハ着信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ移轉ノ居所所在ノ着信局ヘ追送スヘシ
- 第八十九條 追尾電報ヲ着信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ遞送スルトキハ前拂便郵ヲ用ヒ其郵便稅額ハ追徵證書ニ合記シ之ヲ追徵スヘシ
- 第九十條 受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分ヲ記スルモノトス
- 第九十一條 追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルトキ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依託人ニ事實ヲ報シテ其料金ヲ追徵スヘシ
- 第八章 同文電報
- 第九十二條 發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市内ニ非ザルモ着信局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名ヘ差出サントスルトキハ同文電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第九十三條 同文電報ノ賴信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ略符號ト受信人ノ員數ヲ記スヘシ
- 第九十四條 同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電報料ヲ課スルモノトス

- 第九十五條 照校電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ照校電報ノ略符號ヲ記シヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報料ノミヲ課スルモノトス
- 第九十六條 受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ受信電報ノ略符號ヲ記シ同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ
- 第九十七條 同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコトヲ請求セザルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者ハ同文電報ノ略符號ノ次ニ「レンメイト」ト記スヘシ
- 第九十八條 住居ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス
- 第九十九條 同文電報ヲ送達スルニ或ハ郵便ヲ以テシ或ハ別使ヲ以テスル等各配達ノ方法ヲ異ニスルモノハ受信人ノ名下一々郵便配達若クハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第九章 照校電報
- 第一百條 發信人ニ於テ電報中字句ノ誤謬ヲ豫防セントスルトキハ照校電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第一百一條 照校電報ハ各局傳送ノ際全文ヲ校正スルモノトス
- 第一百二條 返信料ヲ前納シタル照校電報ニテ其返信モ亦照校電報ト爲ストキハ照校電報ノ略符號ノ次ニ「ヘンシンセウカウ」ト記スヘシ
- 第十章 受信電報
- 第一百三條 發信人電報ノ正ニ受信人ニ到達セシヤ否ヤノ報知ヲ受ケントスルトキハ受信電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
- 第一百四條 受信報知ヲ要スル電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル時刻ヲ報知スヘシ
- 第一百五條 受信電報ハ其原信ノ種類ニ依テ之ヲ傳送スヘシ

第六六條 受信報知ヲ要スル電報ヲ受信人ニ配達スル能ハサルトキハ着信局ニ於テ先ツ發信局ニ其旨ノ局報ヲ送ルヘシ然ル後電報ヲ配達スルコトヲ得タルトキハ直ニ受信電報ヲ送ルヘシ若シ局報ヲ送リタル後二十四時ヲ過クルモ尙配達スル能ハサルトキハ更ニ其事由ヲ確報スヘシ

第六七條 受信報知ヲ要スル電報ニシテ其着信局ヨリ受信人へ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ受信電報ノ畧符號ノ次ニ別使配達若クハ書留郵便配達ノ畧符號ヲ記スヘシ

第六八條 發信人配達區外ニ居住スルニ依リ別使又ハ郵便ヲ以テ受信電報ノ配達ヲ得ントスルトキハ頼信紙ノ端末ニ「別使」又ハ「郵便」ト記シ其別使料又ハ郵便稅ヲ前納スヘシ

第十一章 返信料前納

第六九條 發信人ニ於テ受信人ヨリ納ムヘキ電報料ヲ前納シテ返信ヲ受ケントスルトキハ返信料前納電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第七十條 一音信又ハ五語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ返信料前納ノ畧符號ノ次ニ其字數又ハ語數ヲ記スヘシ

例

和文 (ナツ一〇)

第七十一條 返信料ハ其原信料ノ三倍ニ超ヘテ前納スルトコトヲ得ス又歐文五語未滿ノ料金ハ前納スルコトヲ得ス

第七十二條 前納返信料ハ着信局ニ於テ郵便切手ヲ以テ電報ト共ニ受信人ニ交付スヘシ

第七十三條 返信料前納ノ電報ヲ受信人ニ交付スルトキハ又ハ受信人ニ於テ返信料ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其旨ヲ着信局ヨリ電報ヲ以テ發信局ヲ經テ發信人ニ報知シ其報知ノ電報ハ

返信ノ代ト看做シテ前納シタル金額ヲ收入スヘシ但和文一音信以上ノ料金ヲ前納シタルモノハ一音信若クハ五語分ヲ收メテ其餘ハ發信人ニ還付スヘシ

第七十四條 返信料前納ノ電報ヲ郵便ニテ送達スルハ着信局ニ於テ電信切手ヲ電報ト共ニ封入シ書留郵便ヲ以テ遞送スヘシ
第七十五條 前條ノ場合ニ於テハ返信料前納ノ畧符號ノ次ニ書留郵便ノ略符號ヲ記スヘシ
第七十六條 返信料前納電報ノ受信人ヨリ發スル返信ハ何時何地方ニテモ隨意ニ之ヲ送ルコトヲ得

第十二章 尋問改正

第七十七條 條例第四十三條第四十四條ニ依リ既送現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依頼ニ依リ傳送スル電報ハ其種類ニ依リ取扱フモ之ヲ往復スルニハ局名ヲ以テスルモノトス

第十三章 原信正寫

第七十八條 原信ノ正寫ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十二款 海底電信線保護萬國聯合條約

○布告第十七號 十八年七月十七日 別紙(畧ス)

第十三款 海底電信線保護萬國聯合條約罰則

○布告第十八號 十八年七月十七日

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス 但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ 右奉 勅旨布告候事

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第六十四條ノ例ニ照シテ處斷シ其未タ遂ケサルモノハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ

處斷ス

- 第二條 陳腐懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタルモノハ其船舶ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳
〔外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館〕ニ二十四時以内ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ十圓以上百圓以
下ノ罰金ニ處ス
- 第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前
條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ
船長ハ一等ヲ加フ
- 第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ニ處ス 前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百二十九條ニ照シ
テ處斷ス
- 第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判
所ニ於テ之ヲ審判ス

第十四款 內國電報ニ着信局所ヲ指定スル規程

- 遞信省令第五號 二十七年七月七日
- 內國電報ニ著信局所ヲ指定スルノ規定左ノ通之ヲ定ム
- 一 電報ノ發信人ハ速達上必要トスルトキハ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ニ限リ特ニ著
信局所ヲ指定スルコトヲ得
- 二 特ニ著信局所ヲ指定セントスルトキハ別使配達、郵便配達又ハ書留郵便配達ノ畧符號ノ前ニ
其局所名郵便電信局、電信局又ハ電ヲ記載スヘシ

- 三 著信局所名ノ記載方不相當ト認ムルモノハ電信局所ニ於テ之ヲ訂正又ハ削除スルコトアル
ヘシ但料金ハ其訂正又ハ削除シタル字數又ハニ依リ計算スヘシ
- 四 特ニ著信局所ヲ指定シタル電報ト雖モ電信局所ニ於テ送達上遲延ヲ來スノ虞アリト認ムル
トキハ指定外ノ局所ヲ著信局所ト爲スコトアルヘシ

第十五款 軍用電信法

○法律第五號 二十七年六月五日

軍用電信法

- 第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス
- 第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス
- 第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 一 固定軍用電信
 - 二 遊動軍用電信
- 第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要港、海岸望樓、監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要
ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス
- 第五條 遊動軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八號電信線電話線建設條例ヲ準用ス
- 第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス
- 第五條 遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及
損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス
- 第六條 軍用電信ハ最寄私設ノ電信取扱所ニ連接シ又私設電信ノ柱木ニ添架スルコトヲ得
- 第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得
- 第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十

一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス
第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第九編 田野山林及鑛業

第一章 田圃害蟲豫防

第一款 田圃害蟲豫防規則標準

○農商務省第四十三號

十八年十二月五日

田圃耕作物ノ害蟲ハ其發生ノ初ニ於テ各自之ヲ驅除スヘキハ勿論ニ候處往々之ヲ忽セニスルヨリ遂ニ蔓延ノ患ヲ來シ不測ノ災ヲ釀スモノ不尠ニ付田圃ノ大害ヲナス蟲類ニ限リ左項ニ基ツキ豫防規則ヲ設ケ農商務省ヘ届出ツヘシ此旨相達候事

- 第一項 田圃害蟲豫防規則ヲ設クヘキ害蟲ノ種類ハ地方ノ狀況ニ據リテ之ヲ定ムヘシ
- 第二項 驅除田圃ニ發生セシトキハ其作人ヲシテ直チニ驅除ニ着手セシムヘシ
- 第三項 驅除地區ハ町村ノ區域ニ據リ豫メ之ヲ劃定シ害蟲蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ其區域内人民ヲシテ驅除ニ從事セシムヘシ
- 第四項 前項ノ場合ニ於テハ其驅除ニ係ル一切ノ費用町村費ヲ以テ支辨セシムヘシ
- 第五項 田圃害蟲豫防規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ之ヲ處分スヘシ

第二款 田圃害蟲豫防規則

○縣令甲第三十二號

十九年六月十七日

田圃害蟲豫防規則

- 第一條 田圃ニ於テ驅除豫防スヘキ害蟲ハ浮塵子、螟虫、蟲蝨、蝸牛ノ四種トス
- 第二條 害蟲豫防及驅除ノ區域ハ一町村ヲ以テ一區域ト定ム
- 第三條 害蟲ノ發生ヲ發見シタルキハ作主ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ其景況ヲ町村役場ニ報告スヘシ
- 但區域内他人ノ田圃ニ係ルキハ速ニ町村役場又ハ作主ニ報告スヘシ
- 第四條 町村長ハ前條ノ報告ヲ受タルキ速ニ實地ニ臨ミ相當ノ驅除豫防法ヲ指示スヘシ
- 第五條 前條ノ場合ニ於テ町村長ハ其時々景況ヲ取調郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ
- 第六條 害蟲蔓延ノ兆アルキハ町村長ノ指示ニ從ヒ區域内ノ人民幾分若クハ全部驅除豫防ニ從事スヘシ
- 第七條 前條ノ場合ニ於テハ其驅除ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第八條 第三條第六條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以内ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處セラレヘシ

○本縣第八十四號

九年八月十八日

從前村々ニ於テ虫追或ハ虫送ト唱ヘ夜中多人數ヲ催シ多數之松明ヲ點シ鐘鼓ヲ鳴シ各所往來所ニ依リ空砲ヲ發スル等ノ舊習有之猥雜不都合之隙モ相聞候條今後ハ前以日限取極メ其旨當廳並管理之警部出張所又ハ屯所ヘ届出之土施行可致發砲之儀ハ不相成候此旨相達候事

第二章 山林

第一款 山林火入取締規則標準

○農商務省訓令第五號

廿一年三月十五日

(二四五)

山野火入取締規則標準ヲ定ム
各地方ニ於テ火入ト稱シ山野ノ枯草ヲ燒キ其火延燒シテ隣接官私林ニ災害ヲ及スコト少シトセス
因テ地方廳ハ左之標準ニ據リ從來ノ習慣ヲ酌量シ山野火入取締規則ヲ設クヘシ

山野火入取締規則標準
第一條 山野ニ火入ヲナサント欲スル者アルトキハ地方廳ハ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受
ケシムヘシ

一 火入期日
一 箇所限地目段別及字番號

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地畧圖

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防
火線ヲ設ケ且其森林原野所有者(官林ナルトキハ大小林區署若クハ)及警察署ヘ少ナクトモ火入期日五日
以前ニ其旨ヲ報告セシムベシ

第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉并塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設
ケヲナサシムヘシ

但シ道路路筋谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條 日出前日没後及風勢穩ナラサルハ火入ニ着手セシム可カラス

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖トモ郡區長警察官大小林區署員大林區署派出所員戸長官林巡
邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アリト思量ス
ルハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第二款 山野火入取締規則

○本縣令甲第二號 廿二年一月廿四日(廿二年一月廿四日縣令二號ニテ改正
廿六年五月縣令第廿八號ニテ第一條第二條改正)

第一條 山野ニ火入ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ各項ヲ具備シタル書面ヲ以テ所轄警察官署又ハ巡
査駐在所ニ届出ヘシ

一 火入期日
一 町村(大字共)名字地目

一 四至ノ境界ヲ見ルヘキ實地畧圖

第二條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防
火線ヲ設ケ且其森林原野、官林ニ接スルハ大小林區署若クハ其派出所又ハ官林巡邏ニ届出其
民林ニ接スルハ所有主ニ通知シ尙火入期日前所轄町村役場ニ其旨ヲ届出ルコトヲ得ヘシ

第三條 防火線ハ幅三間以上トス其方法ハ都テ柴草ヲ刈採落葉并塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝
等ヲ設クヘシ

但道路路筋谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニ非ス

第四條 日出前日没後及風勢穩ナラサル時ハ火入ニ着手スヘカラス

第五條 火入中ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ル迄ハ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條 火入ハ可成一村或ハ組合限聯合施行スヘシ

第七條 火入ノ届出ヲ爲シタルモノト雖郡長、警察官、大小林區署員、其派出所員、戸長、官林
巡邏ニ於テ防火ノ準備不十分ト認メタルハ又ハ風勢ニヨリ他ニ延燒ノ虞アリト思量スルハ直
ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第八條 第一條第二條第三條第五條ニ違背シタル者又ハ第七條中ノ中止ヲ肯セサル者ハ二日以上
五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○布達第三號 十五年二月一日

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防禦シ頽雪ヲ支柱スルノ類國土保安ニ關係アル箇
所ニシテ漫ニ其樹木ヲ伐採セハ他ニ障害ヲ來スコト不尠ニ付是等ノ森林ハ自今實地ノ景狀ニヨリ
伐木停止セシムルコトアルヘシ

(三四五)

右布達候事

○農商務達第三號

十五年二月十三日

今般第三號布達相成候ニ付テハ民有林ノ内水源涵養土砂扞止風潮除類雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ伐木セント欲スルモアルキハ其都度實地ノ景況ヲ検査シ處分方可伺出此旨相達候事

○本甲第二十八號

十五年三月一日

民有林ノ内水源涵養土砂扞止風潮除類雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ伐木セント欲スルモアルキハ其都度實地明瞭ノ圖面相添可伺出此旨布達候事

○内務省乙第四十九號

十三年十二月三日

今般太政官ヨリ被相達候旨モ有之山林之儀ハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟上最モ忽ニスヘカラサル所ニシテ一タヒ其ノ制ヲ愆レハ寒暑ノ序ヲ失ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野燒ノ愛ヲ防クハ勿論漸時開地ニ於テ樹木植栽等ニ着手シ山林保護ノ道相立候様此際一層注意シ管下人民ヘ懇ロニ相諭シ山林ノ荒蕪ヲ挽回候様取計可申此旨相達候事

第三章 鑛業

第一款 鑛業條例

○法律第八十七號

廿三年九月廿五日

鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業届等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス
試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得
第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

- 第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ
- 第十二條 前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス
- 第十三條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ
- 第十四條 採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願ヲ無効トス
- 第十五條 採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ
- 第十六條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ
- 第十七條 採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス
- 第十八條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス
- 第十九條 試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム
- 第二十條 出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス
- 第二十一條 出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム
- 第二十二條 農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ
- 第二十三條 試掘若ハ採掘ノ專業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長ハ採掘ノ特許ヲ得タル處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス
- 第二十四條 特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス
- 第二十六條 採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス
- 第二十七條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十八條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ
- 第二十九條 試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第三十條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ
- 第三十一條 鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第三十二條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府

- 第三十三條 農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス
- 第三十四條 試掘若ハ採掘ノ專業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得
- 第三十五條 鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス
- 第三十六條 特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得
- 第三十七條 採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス
- 第三十八條 採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス
- 第三十九條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四十條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ
- 第四十一條 試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第四十二條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ
- 第四十三條 鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第四十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府

司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ着手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑區實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス 第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得 鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ 鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ 測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帯スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
- 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ
一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サハルトキ
第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ
土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ
差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス
土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ
土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ
土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應シ其
ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キハ土地借受人ニ於テ其損害ヲ賠償スヘシ
第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當ス
ル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ
取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公
告スヘシ土地借受人右期限内ニ取除ヲナサハルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘ
シ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スル
トキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ
之ヲ拒ムコトヲ得ス
第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上

之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保
證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請
求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸
渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ判定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代價ニ就
テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス
第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入
費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證
金、損害賠償金又ハ賣買代價ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受
ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察
第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長
之ヲ行フ
一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一 地表ノ安全及公益ノ保護
第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ
其ノ豫防ヲ命ジ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ
所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務

大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ
此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ
鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ
- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂フ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

- 一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
- 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 一 第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト
- 一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
- 一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ
此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ
第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ
- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂フ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

- 一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
- 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト
- 一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
- 一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ癱瘓トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章 鑛業税及鑛區税

第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ坑區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス

鐵鑛ヲ採鑛スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ着手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ逋税シタル者ハ其ノ逋税金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋税ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

第一款 鑛業警察規則

○農商務省令第七號 廿五年三月十六日
鑛業警察規則左ノ通相定ム

鑛業警察規則

- 第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ
- 第二條 豎坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚豎坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ
- 第三條 卷揚臺ヲ用井テ人ヲ昇降セシムル豎坑ニハ板圍アル豎牢ノ梯子道ヲ設クヘシ
- 第四條 豎坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ踏柵ヲ設クヘシ
- 第五條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ
- 前項ノ卷揚臺ニ用井ル繩綱ハ少クトモ重量ノ十陪ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ越ユルコトヲ得ス
- 第六條 人ヲ通行セシムル坑内ノ自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ人道ヲ設クヘシ
- 前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ
- 第七條 豎坑ノ上下周圍ニ於ケル交通運搬ノ用ニ供スル坑道ハ豎坑ヨリ六尺以上ノ距離ヲ置クヘシ
- 第八條 坑内ニハ鑛夫ノ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

第九條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

第十條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ検査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス

第十一條 安全燈ヲ用井ル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ攜帶スルコトヲ得ス

第十二條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十三條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス

道火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス

第十四條 鑛業ニ使用スル烟突汽鐘發電機又ハ燒鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第十五條 同一鑛區内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ採掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈

交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ採掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十六條 試掘ノ認可若クハ採掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ

第十七條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

- 第十八條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ監視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ查閱スルコトヲ得
- 第十九條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ
- 第二十條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ
- 第二十一條 鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ
- 第二十二條 本則ニ違反シタルモノハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ
- 前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

第三款 鑛業條例施行細則

〇農商務省令第六號

廿七年七月廿四日

- 第一條 鑛業條例ニヨリ差出ス願書ハ第一號ヨリ第十三號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ明治廿七年勅令第三百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ
- 試掘地畧測圖鑛區畧測圖試掘地實測圖鑛區實測圖鑛業實施案鑛業條例第三十九條ノ届書及ヒ同條例第四十條ノ帳簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル雛形ニ準シ調製スヘシ
- 第二條 試掘願書及試掘地實測圖ヲ同時ニ差出シ難キ時ハ願書ニ第一號雛形ノ試掘地畧測圖ヲ添ヘ差シ出シ置キ試掘地實測圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ差出スヘシ

- 第三條 鑛業條例第十二條第二項ニヨリ願書ノミ差出スルハ第一號雛形ノ鑛區畧測圖ヲ添フヘシ
- 第四條 願書届書請求書實施案及圖面ニ代印セシムル時ハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ
- 第五條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ニヨルヘシ
- 第六條 試掘地若クハ鑛區最短徑ハ其最長徑ノ四分ノ一ヨリ下ルコトヲ得ス
- 但所轄鑛山監督署長ニ於テ適當ト認ムル時ハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第七條 鑛業者ノ承諾ヲ經スシテ其試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間ニ拾間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ
- 所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛利ヲ保護スル爲メ必要ト認メタル時ハ五十間迄前項ノ距離ヲ延長セシムルコトヲ得
- 第八條 鑛業ニ關スル願書若シクハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若シクハ補充セシムヘシ
- 第九條 試掘願採掘願ハ鑛山監督署長ニ於テ實測圖受理ノ日ヨリ五日以内ニ出願地所在ノ地方長官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否ヲ取調ヘ其意見ヲ試掘ニ付テハ所轄鑛山監督署長ニ通知シ採掘ニ付テハ農商務大臣ニ上申スヘシ
- 第十條 試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ試掘願若シクハ鑛區願ノ手續ニ依ルヘシ
- 第十一條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ試掘ノ成績及事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ
- 第十二條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ願書發送ノ日ヨリ三十日以内ニ其鑛物ノ標品又ハ證明書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

- 第十三條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ
- 第十四條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ
- 第十五條 鑛業特許證書換願、鑛掘訂正願、鑛區合併若クハ分割願、採掘權書入登錄願及鑛業條例第九十條ニ依ル採掘特許願ニハ鑛業特許證若クハ借區券ヲ添フヘシ
- 第十六條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前期末日ノ現況ヲ記載スヘシ
坑内實測圖ハ前項調製期月ノ翌月中ニ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ
但前實測圖ト交換スルコトヲ得
- 第十七條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ
- 第十八條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ
- 第十九條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ届書ハ廢止又讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡シノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ
但届出ツヘキ事項ナシト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ
- 第二十條 鑛業條例第四十七條ニヨリ測量ノ認可ヲ受ケントスルモノハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ
但土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ受クルヲ要セス
- 第二十一條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ依リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルモノハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

- 鑛業條例第五十五條土地貸渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ
- 第二十二條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ
- 第二十三條 試掘人ハ試掘地實測圖ヲ採掘人ハ左ノ鑛業事務所ニ備置クヘシ
一 鑛區實測圖 二 坑内實測圖 三 鑛業施業案
- 第四條 鑛業條例第四十條ノ帳簿
- 第二十四條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ置キ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ前項代理人ノ權限左ノ如シ
一 鑛山監督署ヨリ發スル命令通知ヲ受クルコト 二 鑛業施業案ノ認可ヲ受クルコト
三 坑内實測圖ヲ差出スコト 四 鑛業條例第三十九條ノ届書ヲ差出スコト
五 鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ受クルコト
六 鑛業稅及鑛區稅ヲ納ムルコト 七 本則第十八條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト
八 鑛業警察規則第十七條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト
九 鑛業警察規則第十八條ノ場合ニ於テ必要ノ事務ヲ處辨スルコト
- 第二十五條 鑛業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
但採掘權ヲ相續シタル者ハ其届書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ
- 第二十六條 鑛業條例第三十條第三十三條第二項第三十四條第二項第四十三條第二項及第七十六條ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタルトキハ七日以内ニ其旨所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
- 第二十七條 鑛業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限リ認ムシ
試掘願採掘願試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ關ル區域變更願ハ總テ一件毎ニ別封トシ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

- 前項ノ書類ヲ差出ストキハ發送郵便局ヨリ受付ノ年月日及時刻ヲ記入シタル受領書ヲ請置クヘシ
- 第二十八條 鑛業ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス
- 試採願採掘願試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ニ付キ日時ノ前後ヲ定ムルニハ前條第三項ノ日時ヲ以テス
- 但前條第三項ノ受領書ナキモノハ本條第一項ニ依ル
- 第二十九條 試掘又ハ採掘ノ廢業屆書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ
- 廢業ノ日時ハ屆書差出ノ日時ヲ以テ定ム
- 第三十條 鑛業ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス
- 第三十一條 左ニ掲クル願書及受領書ハ受理セス
 - 一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル書類又ハ請求書
 - 二 圖面添屬ナキ試掘願採掘願試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル鑛區變更願
 - 三 添屬圖面中出願鑛區中不分明ナル試掘願採掘願試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル鑛區變更願
 - 四 書留郵便ヲ以テ差出サル試掘願採掘願試掘地若シクハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願
- 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ出願ヲ無効トス
 - 一 本則第二條ノ期限内ニ試掘地實測圖ヲ差出サハルトキ
 - 二 本則第八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若シクハ補充ヲナサハルトキ
 - 三 本則第十二條ノ期限内ニ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サハルトキ

- 四 正當ノ理由ナク本則第十三條ノ立會ヲ爲サハルトキ
- 五 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能サルトキ
- 六 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ
- 七 出願人ノ住所ノ不分明ナルトキ
- 第三十三條 鑛業條例第三十九條ノ届出ヲナサハル者本則第十三條第十四條第十八條又ハ第十九條ヲ犯シタル鑛業人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十四條 本則第二十三條(第二號)第二十四條第一項又ハ第二十六條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第三十五條 本則第二十五條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 附則
- 第三十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書若クハ借掘願書ニシテ同條例施行ノ日マテニ處分ヲ終サルモノハ總テ同條例ニ依ル試掘願書若クハ採掘願書ト看做シ處分スヘシ
- 第三十七條 本則施行以前ニ差出シタル願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ
- 第三十八條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則ハ同日限リ之ヲ廢止ス

第四款 砂鑛採取法

○法律第十號 二十六年三月四日

- 砂鑛採取法
- 第一條 此法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ
- 第二條 砂鑛ヲ採取セムト欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 帝國臣民ニ非レハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合人又ハ會社員トナルコトヲ得

採取人未成年、瘋癲、白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社
員トナルコトヲ得ス

第四條 採取區域内ノ所有ニ係ルトキハ所有者又關係人ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人自ラ採取ヲ出願スルトキハ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與
フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得

第五條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セス

第六條 採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第七條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其
ノ豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務
大臣ノ認可ヲ經ヘシ

採取業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ停止ヲ解クヘシ

第八條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消
コトヲ得

第九條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以
内ニ採取ニ着手セザルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可
ヲ取消スヘシ若シ其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨ
リ三十日以内ニ其ノ許可ヲ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

第十一條 第六條第八條第九條及第十條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日

以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十二條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スコト
ヲ得ス

第十三條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコト必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキ
ハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一洗鑛ノ爲 一製鍊所建設ノ爲 一洗滌用水路及溜池開設ノ爲

第十四條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス
土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲナスヘ
シ

第十五條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得

第十六條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキハ其ノ土地所有者ハ土地
ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルト
キハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若クハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ
於テ採取人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借地料、損害賠償金又
ハ土地賣買代金ニ付協議調ハザルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ
就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

- 第十九條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
- 第二十條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料、借地願、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得
- 第二十一條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
- 第二十二條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得
- 第二十三條 砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第二十四條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

第五款 砂鑛採取法施行細則

○農商務省令第七號

二十七年七月二十四日

- 第一條 砂鑛採取ノ願書ハ第一號又ハ第二號書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號又ハ第二號雜形ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測圖ヲ添ヘ明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ
- 但砂鑛採取ノ願書ニハ登記印紙ヲ貼用スルヲ要セス
- 第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ル時ハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添フヘシ

- 土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期限ヲ定メ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出シヲ命スヘシ若シ此ノ期限内ニ願書ヲ差出サハルトキハ出願セサルモノト看做スヘシ
- 第三條 鑛山監督署長砂鑛採取ノ願書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ之ヲ出願地所在ノ地方長官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルキハ土地ノ狀況ニ依リ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ採取ノ事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否並ニ出願地所有者ノ住處氏名ヲ取調ヘ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ
- 第四條 砂鑛採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ
- 第五條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ
- 第六條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ
- 第七條 願書屆書請求書及圖ニ代印セシムルキハ之ニ委任狀ノ書ヲ添フヘシ
- 第八條 砂鑛採取法第十條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ
- 第九條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタル時ハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ
- 第十條 採取人ハ毎年二月第三號雜形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採取人廢業シタル時ハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

第十一條 採取業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十二條 採取人廢業シタル片ハ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項廢業ノ日時ハ届書差出シノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタル片ハ發送郵便局消印ニ依リ差出シノ日時ヲ定ムルモノトス

第十四條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

一 明治二十七年勅令第百號手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書

二 採取地實測圖ノ添屬ナキ願書

三 土地所有者又ハ關係人ノ承諾書若クハ其承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサル願書

四 添屬圖面中出願區域不分明ナル願書

第十六條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

一 本則第四條ニヨリ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲ爲ササルキ

二 正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立會ヲ爲ササルキ

三 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルキ

四 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ

五 出願人ノ住所不分明ナルキ

第十七條 本則第五條又ハ第六條ヲ犯シタル砂鑛採取人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本則第十條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 本則第十一條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十條 砂鑛採取法施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ同法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十一條 本則施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ本則施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十二條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治三十六年農商務省令第八號砂鑛採取法施行細則ハ同日限リ之ヲ廢止ス

第十編 漁 獵

第一章 狩 獵

第一款 狩獵規則

〇法律第二十號 二十八年三月二十日

狩獵法

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、綱繩又ハ撿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル罌及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官（東京府下ハ總監警視下以做之）ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
(一)御獵場(二)禁獵制札アル場所(三)公道(四)公園(五)社寺境内(六)墓地(七)柵、柵圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受クヘシ但シ柵、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ区域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免許ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免許ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免許ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免許ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上納ムル者

甲種金五圓
乙種金十圓

二等 所得稅三圓以上若ハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族

甲種金一圓五十錢
乙種金三圓

三等 一等二等以外ノ者

甲種金五十錢
乙種金一圓

第十條 甲種免許ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免許ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免許ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免許ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免許ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免許ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免許ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 免許ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ
免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十五條 十六歳未滿ノ者ハ乙種免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十七條 遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免許ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若シ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得
捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム
第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス
第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖モ學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長
官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得
有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ
罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下
ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス
第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五
錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免狀ヲ受ケタル狩獵ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス

第二十五條 此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコ
トヲ得

○省令第四號

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

農商務大臣 子爵 榎本 武揚

明治二十八年三月二十七日

狩獵法施行細則

第一條 狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ罾、投網、霞網其他ノ張網トシ竊繩ハ流シ繩、張繩
トシ又換ハ高換、千本換トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩
獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ
附記スヘシ

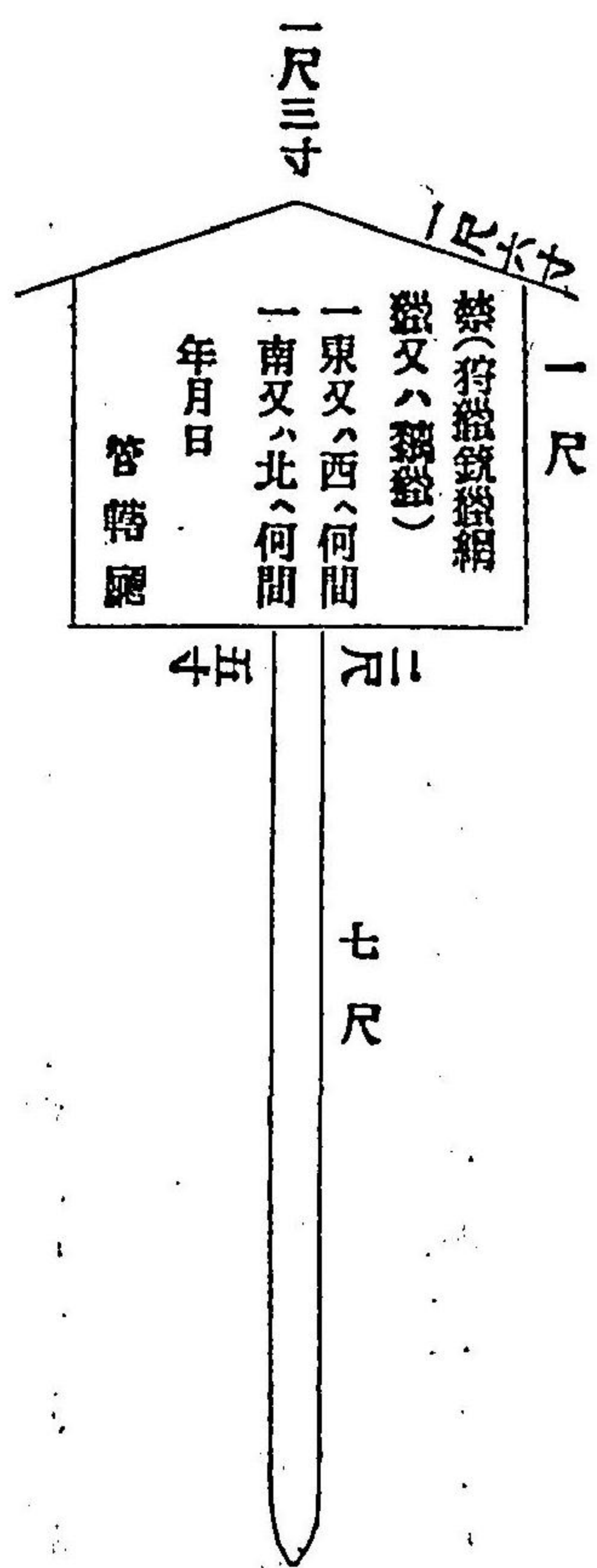
第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官
〔東京府下ハ警視廳
監以下之ニ依テ〕ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内
ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者
ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ



第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

免許ノ繼續スルトキ亦同シ

第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用

ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

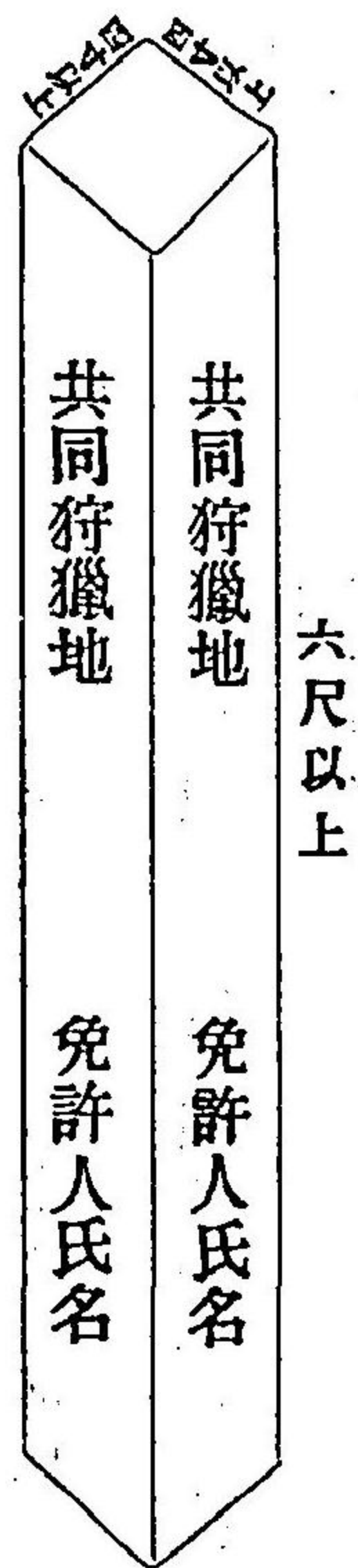
第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雜形ニ據リ木

標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ



第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地

ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

- 一 鶴ツル 一 燕ツバメ 一 小雀コナヅカ 一 日雀ヒナガサ 一 四十雀シヨウカガ 一 五十雀イソシカガ

- 一 柄長エホナガ 一 鴛鴦ウヰサザイ 一 杜鵑クワクゴウ 一 郭公クワクゴウ 一 三光鳥サンミツトリ

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

- 一 雉トリ 一 鷓鴣シメドリ

第十六條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

- 一 鶺鴒ヒメキ 一 雲雀ヒメキ 一 鶇ヒヨ

- 一 鶇ヒヨ 一 松鷄マツトリ 一 鳩トビ

第十七條 牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牝鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコ

トヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ヲ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四款 狩獵規則施行細則ニ關スル出願手續

○本縣令甲第五十七號 廿五年十一月二日

狩獵規則施行細則ニ關スル出願手續左ノ通相定ム

(廿五年十一月縣令第六十號ニテ第一條第三條第四條第六條第七條中ニ又ハ分署ノ二字ヲ加ヘ第八條第九條則除廿五年十二月縣令第七十六號ニテ六條ニ追加)

狩獵ニ關スル出願手續

第一條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ狩獵規則施行細則第三條ニ據ルノ外願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

但職獵免狀ヲ請フノ願書ニハ狩獵規則第八條各項ニ觸レサルコトヲ證スル爲メ現住地町村長ノ證明ヲ受ケ差出スヘシ

一 職獵遊獵ノ區別

二 家族ナレハ戸主ノ住所氏名及其所得稅ノ納額

三 所用ノ銃名玉目又ハ獵具ノ種類

第二條 獵區設定ノ免許ヲ得ントスル者ハ狩獵規則施行細則第五條ニ據ルノ外願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

一 獵區設定ノ場所官有ニ係ルモノハ其管轄官廳ノ借用許可證寫

二 他人ノ所有ニ係ルモノハ其所有者又ハ管理人ノ承諾書寫

第三條 禁獵制札ノ建設ヲ欲スル願書ニハ禁獵ヲ要スル場所ノ面積方位所有地借地ノ別并建札ノ位置及方位距離等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第四條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ狩獵規則施行細則第八條雛形ニ據リ制札ヲ作り所轄警察署又ハ分署ニ差出シ禁條文ノ記載ヲ請フヘシ但朽腐等ニ係リ再設ヲ要スルトキ亦同シ

第五條 狩獵規則第九條ノ木標建設ノ届書ニハ其建設シタル木標ノ總數ヲ記シ差出スヘシ

第六條 狩獵規則第十四條第十五條ノ鳥獸ニシテ驅除又ハ捕獲ヲ要スル理由アリ又ハ有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ヲ必要トスル事實アリ免許ヲ請ハントスルノ願書ニハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ但狩獵規則第十六條第一項ニ據ル捕獲日數ハ三週間以内ニ限ルヘシ

一 住所族籍氏名年齢

二 捕獲又ハ驅除ヲ要スル理由及其期限

三 捕獲又ハ驅除ノ方法

四 鳥獸ノ種類(學術等ノ捕獲ニ就テハ員數トモ)

第七條 前條ニ據リ許可ヲ受ケタルトキハ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ニ着手ノ日ヨリ一週間毎ニ其鳥獸ノ名雌雄牝牡及員數ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第八條第九條 廿五年十一月縣令第六十號削除

第五款 狩獵取締ニ關スル雜件

○保第五八七號 廿四年六月十七日

銃獵及威銃ニ關スル事務取扱手續(第一條乃至第三條ハ狩獵規則ニヨリ自然消滅)

第四條 威銃免許ヲ願出タルトキハ威銃取締規則ニ照準シ願人ノ資格及用銃ノ制限等ヲ審査シ不都合ナキモノハ免許鑑札ハ様式ニ依リ記載シテ下付スヘシ但不都合ノ廉アリ鑑札下付シ難キモ

ノ下認ルモノハ警部長ニ稟議スヘシ

第五條 每期銃獵免許臺帳威銃免許臺帳各一冊ヲ製シ番號免許人ノ族籍職業住所氏名年齢用銃ノ種類玉目免許ノ年月日其期限及再渡書換ヲ爲シタルトキハ其事由年月日等ヲ詳記スヘシ

又銃獵免許臺帳ニハ職遊獵ノ區分及免許人ノ資産見積額ヲ併記スヘシ

第六條 銃獵及威銃ノ定期ヲ伸縮セントスルトキハ其場所伸縮セントスル年月日實際ノ情况ヲ取調尙所轄郡長ノ意見ヲ聞キ其事由ヲ詳記シテ具狀スヘシ

第七條 每翌月十日限リ前月ハ定期經過後分銃獵免許明細表及附録ヲ様式ニ依リ調製シ警察部ニ差出ヘシ

前年七月一日至前年六月三十日銃獵免許總計表及威銃免許明細表ヲ様式ニ依リ調製シ毎年七月五日限リ警察部ニ差出ヘシ

第八條 銃獵免狀ハ凡積ヲ以テ毎年五月限リ警察部ニ請求書ヲ差出ヘシ

第九條 滿期ニ至レハ速ニ免狀並免許鑑札ヲ返納セシメ一ケ年分取纏メ使用殘餘ノ免狀ト共ニ毎年七月五日限リ警察部ニ送致スヘシ

返納セシメタル免許鑑札ハ所管警察官署ニ於テ裁斷スヘシ

威銃免許鑑札

印	割
第何號	威銃免許鑑札
印	

表

明治何年何月何日

裏

族籍	何府(縣)國郡(市)町(村)番地土族(平民)
住所	何郡町(村)番地住(寄留)
氏名	何 某
年齢	明治何年何月何年何ヶ月
期限	自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

威銃免許明細表

自明治何年九月一日	至明治何年五月卅日	威銃免許鑑札明細表	警察署
鑑札受取高	何	何	枚
全下付高	何	何	枚
全再渡高	何	何	枚
全書換高	何	何	枚
全殘餘高	何	何	枚

全前年度 還納高	何			枚
	華士族	平民	何	
免許人身分	何	何	何	
	洋	和	何	
用銃種類	洋銃	和銃	何	
	何	何	何	

○農商務大臣内訓丙第三九八號 廿五年十月廿六日
 帝國在留各國交際官ノ儀ハ從來無稅免狀ヲ交付セシモ今般狩獵規則公布セラレタルニ付テハ自今別段狩獵免狀ヲ交付セス狩獵セシメ苦カラヌ尤モ出獵ノ際ハ別紙雜形ノ通リ其官職ヲ記載シタル書札ニ本省ノ證印ヲ捺捺シ常ニ携帶セシムベキニ付不都合ナキ様取扱フヘシ午去交際官ト雖モ狩獵規則ノ制限ヲ遵守スベキハ勿論ノ義ニ有之候間萬一違反等有之候節ハ其官職姓名及事由詳記ノ上直ニ外務大臣及本大臣ヘ報告スヘシ
 但シ拘留引致等不相成ハ勿論ノ義ト心得ヘシ

雜形

表

號	第	從	年	月	日	有	効
外國交際官狩獵證		至	年	月	日		
日本帝國 農商務省		朱印					

裏

警察署若クハ相當官ニ於テ此證標ノ檢査ヲ請求スルトキハ示スヘシ

○農商務大臣内訓丙第四〇二號 廿五年十月廿六日
 本邦在留朝鮮人墨西哥人及ヒ葡萄牙人ニシテ狩獵免狀ヲ請求スル者ハ遊獵免狀ヲ下付シ狩獵規則ニ從ヒ處分候儀ト心得ヘシ
 但シ葡萄牙人ノ狩獵區域ハ條約規程内ニ限ル
 ○勅令第九十號 廿五年十月三十一日
 狩獵及獵區設定ニ關スル免許料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ當該官廳ニ差出スヘシ
 ○農商務省訓令第二十九號 廿五年十月廿日 警視廳 北海道廳 府縣^{東京府}
 本年勅令第八十四號狩獵規則第十八條ニ據ル獵區設定免許料ノ徵收方ハ其廳ニ委任候條 二十三年當省訓令第二十九號及二十四年大藏省訓令第七十七號ニ據リ取扱フヘシ
 ○農商務省訓令第三十四號 廿五年十一月十一日 警視廳 北海道廳 府縣^{東京府}
 朝鮮人墨西哥人葡萄牙人ニシテ遊獵免狀ヲ申受ケントスル者アルトキハ出願手續免許料納付等總